北海学園大学 学報

北海学園大学学報
発行・編集　北海学園大学
札幌市豊平区旭町4丁目1番40号　〒062-8605
電話 011(841)1161
FAX 011(824)3141
URL http://hgu.jp/
gakuho@tyhr.hokkai-s-u.ac.jp
発行日（6月1日、9月1日、12月1日、3月15日）
購読料　1部80円　年間320円
制作・印刷　株式会社人力社

開拓者精神で活躍を

学長　木村（きむら）　和範（かずのり）

晴れて学位を取得し、学窓を巣立つ卒業生の皆さんに心からの祝意を表します。

この時期になりますと、「人事有代謝、往来成古今（人事、代謝あり、往来、古今をなす）」*（人間の営みでは、常のこととして、人が次々と入れ替わる。行く者がいて、来る者がいる。こうして、時は過去から現在へと移ろい、歴史を紡ぐのである。）という言葉が思い出されます。

これほど、本学の姿を言い表している言葉があるでしょうか。卒業生を送り、新年度には多くの学生が入学します。まさに「人事有代謝」です。そして、「往来成古今」の通り、8万人を超える有為の人々が巣立ち、本学の歴史を紡いできました。皆さんには、多くの先輩に伍して、臆することなく社会生活を送って欲しいと願っています。

◆　◆　◆

顧みますと、本学は、北海短期大学（1950（昭和25）年創立）を改組転換して、1952年に、経済学部経済学科（入学定員120人）だけではありますが、北海道で初めての4年制私立大学として発足しました。この翌年には、短大2部の改組転換もなされ、2部もまた4年制大学（入学定員80人）となり、現在の原型ができました。発足当初は、入学総定員が200人であった本学は、3年後に短大設置から数えて創基70年を迎え、定員が、およそ9倍に増え、北海道を代表する大学へと進化発展しました。

そして、有り難くも、ある調査結果によれば、本学は北海道のなかの大学としては「おもしろみのある大学」と評価されるとともに、在学生は「コミュニケーション能力に優れている」と言われるまでになりました。コミュニケーション能力は、①状況を把握し、他人の言うことを理解する能力と②しっかりと自分の考えを言葉によって表現する能力からなります。皆さんを含む在学生が、社会生活を送る上で重要な、この能力に優れていると評価されたことを、本学は誇りとします。

◆　◆　◆

この間、開設以来60年に亘って地域課題の解決に取り組んできた本学の付置研究所・開発研究所（1957（昭和32）年設置）などによる地道な研究・社会貢献が認められ、2013（平成25）年に、学校法人北海学園（以下、「学園」）は北海道との間で包括連携協定を締結し、本学も重い使命を果たすことになりました。加えて、地域密着型大学としての実績は、中央にも知られるところとなり、学園とUR都市機構との包括連携協定の締結をもたらし（2016（平成28）年）、それを機に、本学は更なる使命を果たすべく、新たな歩みを始めました（『学報』第108号、昨年12月1日発行参照）。

卒業生に贈る

皆さんは、地域に根ざした大学を卒業することを肝に銘ずるとともに、そのことを誇りとし、これからの人生を歩んで欲しいと願っています。卒業と同時に皆さんは、2014（平成26）年に結成60周年を祝った本学の同窓会（豊平会）の一員として社会生活を送ることになります。皆さんは、折に触れて豊平会の一員であることによって、自分の未来が拓かれていることを実感し、やがては支援される側から、後輩を支援する側へと回ることでしょう。卒業証書・学位記授与式の後には、会場を変えて、卒業祝賀会が開催されます。それは、同窓会への入会式でもあります。それに出席して、先輩からの祝福を受けて欲しいと願っています。

◆　◆　◆

本学は、授与する学位にふさわしい学識を教授しました。考える力や適切な判断力を体得することができるようにと意を用いるとともに、試練に耐えて生きぬく力を身につけて欲しいとも願いました。学位記は皆さんの努力の結晶です。それには、本学における学びが皆さんの幸せへのパスポートであって欲しいという教職員の願いが凝集されています。その学位記が皆さんの幸せに繋がるものであるとともに、世のため、人のためにもなることを願っています。他人の不幸の上に己の幸せがあることを恥とし、健康に留意して、心豊かに人生を歩むことを祈念します。

本学の建学精神は開拓者精神です。これは、自立と自律という二つの言葉をキーワードとします。これからの社会生活の中で、皆さんには、この二つの「じりつ」を我が物とすべく心がけ、存分に活躍することを願っています。

Stat Roma pristina nomine, nomina nuda tenemus（昔日のローマは ただその名のみ。手にするのは、そのむなしき名）**は、本学とは無縁です。母校は永劫であり、引用文のRomaがHGUに置き換わることはありません。残る教員と職員は、130年を超えた歴史的伝統をもつ北海学園の設置校の一つであることを自覚するとともに、それを誇りとし、北海道の高等教育を牽引する気概をもって、社会的使命を果たし続けます。

* 孟浩然（盛唐の詩人、689年～740年）の五言律詩「与諸子登峴山（諸子と峴山に登る）」の冒頭部分。

** 出所はBernardo Morlia-cense（12世紀のベネディクト会修道士）の *De contemptu mundi*（俗世界のさげすみについて）。(cf. Umberto Eco, Postille a *Il Nome della Rosa*（『『薔薇の名前』注解』）[Milano, 1980], in: *ditto, Il Nome della Rosa*, VII edizione(2016), p. 579f.)

主な記事

法学部・神元隆賢教授「交通事故と法整備」―2面
退職教職員からメッセージ―3面
未来展望「このままでは危ない水道事業」―4面
文化遺産をたずねて　ニトリ小樽芸術村―5面
「別海の四季 春」河﨑秋子―6面
公認会計士試験　本学初の現役合格―7面
キャリア支援センター　採用広報開始―8面

事務部長　木村（きむら）　勝照（かつてる）

2020年、日本で2回目となる東京オリンピック・パラリンピックまであと3年、真夏の東京、日本選手団の活躍が楽しみだ。

1964（昭和39年）年東京五輪終了後、ひっそりとではあるものの、パラリンピック東京大会が、5日間の日程で開催されたことはあまり知られていない。4年前のロンドンに次いで2回目の大会だった。昨年のリオパラリンピックの様子は、テレビや多くの紙面を沸かせ関心が高まっていることを伺わせる。

時代がこうした方々へ漸くスポットをあて始めたことを歓迎しつつ、嘗て、障がいを持つ人々にとってスポーツはおろか、生きることさえも、どんなに大変であったかを、林和吉（経済3期・元北海高校教諭）先生の人生を通して振り返る。

林先生は、1927（昭和2）年6月、空知郡北村に農家の五男として生まれた。

生まれながら足に障がいを抱えていた。90年前、まして泥炭地を開拓した田畑が広がる田舎での生活、どんなに大変なことだったかが想像できる。けして弱音を吐かなかった先生ながら日記にその苦悩が滲む。

1938（昭和13）年 尋常小学校5年「中学進学を希望するも、障がい者は不可と告げられた」、1939（昭和14）年 尋常小学校6年、「楽しみにしていた就学旅行は前日になって安全を保障できないと担任から参加を拒否された」。そんな林少年が高等科1年の1940（昭和15）年、北中・札商は受験可能であることを先生から知らされ、受け入れる中学がある事を初めて知りこのことが人生の転機に繋がる。

1942（昭和17）年 札幌商業第一本科入学（後に北海中学へ編入）、1年生5クラスに足の不自由な生徒が5名もいて、驚いたそうだ。

1945（昭和20）年3月6日 国民勤労動員令・3月18日 閣議 国民学校初等科以外の学校の授業1年間停止・5月22日 戦時教育令5月、第2国民として軍隊手帳が配布され、円山小学校で観閲点呼を受けた。「腰に奉公袋を下げて参加、〝日本も終わり〟と感じた。口には出さないが」と日記にある。

そして終戦、混乱の中、苦闘は続く。下宿を追われることといく度、殆どがトイレ・食事の問題。10月北中授業再開、生徒・教師の虚脱感、教科書不足、黒塗り等に嫌気とも。請われて、1948（昭和23）年から4年間、故郷北村で代用教員を務める。北海高校の神位先生から、4年制の北海学園大学が開設されるので戻るように勧められ、1952（昭和27）年4月、3期生として入学。その後、卒業したものの、就職が決まらず学習塾を開設し、生活も漸く安定。1960（昭和35）年北海中学（新制）講師採用。

1989（平成元）年北海高校退職。この間本学非常勤講師も務めた。代用教員時代も含め、雪の研究者とりわけ雪崩研究の草分け的存在である秋田谷英次氏、国内最大手の調剤薬局の創業者、大谷喜一氏、集団予防接種の注射器使い回しによる訴訟で、活動の先頭に立った全国B型肝炎訴訟北海道原告団代表、故高橋朋己氏ら多数の教え子を育てた。生徒に寄り添い励まし続けた先生の姿が懐かしい。

林先生にとって、札幌商業・北海中学・北海高校・北海学園大学は、その時々で将来に繋がる大きな希望であったに違いない。北村で、当時の先生からの進言がなく、中学進学の道が絶たれていたなら、北海学園大学との縁もない。一緒に札幌商業に入学した5名の足の不自由な方々のその後は知る由もないが、先生は差別や偏見の中で一生を終えていたのかもしれない、また旧制北海中学が受け入れなければ、義足の経済学者・野呂榮太郎も歴史に名を刻むこともなかった。

人は二度死ぬ、一度は心臓が止まった時、もう一度は故人を知る人がこの世から全て去った時だそうだ。この拙文が終戦間もない北村で、青雲塾の舞台となった豊平の愛隣館、そして北海高校で教壇に立ち、教え子たちから「仰げば尊し」に送られ世を去った松葉杖の社会科教師、林和吉という同窓の教育者を、北海学園の歴史の中に語りついでくれることを教え子の一人として願ってやまない。

●語り継ぐ北海学園の教育者●

松葉杖の社会科教師　林 和吉先生（経済3期卒）

一般入試会場（本学・2月9日）

平成29年度 入試状況

平成29年度一般入学試験と大学入試センター試験利用入試I期、併設校推薦入試（北海学園札幌高校・北海高校・北校）の合格発表が2月24日に行われた。大型の合格掲示板が設置される大学は、最近では道内数大学に限られているが、合格掲示板を見て合格を確認した受験生の喜びは一塩の物がある。合格発表当日は、例年恒例となったアメリカンフットボール部の学生たちによる合格者の胴上げが行われ、会場は合格者や家族の歓喜の声に包まれた。

昭和49年の第2次ベビーブームをピークに出生率は、毎年低下してきた。現在の18歳人口の減少はこの影響によるものであり、大学を取り巻く環境は依然として厳しさを増している。

そのような環境の中、本学では志願者数において前年比横ばいを堅持し好調を継続している。中でも特徴的なのは、文系4学部に設置している2部（夜間部）の志願がここ数年非常に好調ということである。平成28年度一般入試において前年比152%と大幅に増加し、今年度の一般入試において好調だった前年をさらに上回る前年比134%となった。

2部の出願 今年も好調

合格者の胴上げ（2月24日）

本学の2部の特徴として、学費において国公立大学並みの授業料の安さ、1部と遜色ない授業内容や就職実績、2部学生数だけでも他大学に負けない規模であることなどが挙げられる。現在本学2部の定員数は1学年470名であり、この規模は北海道の国・公・私立36大学中14位に位置している。このような2部の特徴を長年にわたり、広報をし続けてきた結果が志願に結びついていると言えそうだ。

既に合格者を発表した推薦入試と合わせ、平成29年度入試は、現在のところ好調に推移している。これから行われる大学入試センター試験利用入試Ⅱ期に期待するとともに、今後も多くの受験生が志望する大学であり続けたい。

平成29年度 一般入試
センター利用入試Ⅰ期出願者数

部	学部	学科	一般入試	センター利用入試
1部	経済	経済	1,154	228
		地域経済		
	経営	経営	561	273
		経営情報	359	205
	法	法律	686	223
		政治		
	人文	日本文化	219	173
		英米文化	178	166
	工	社会環境工	89	146
		建築	121	136
		電子情報工	103	178
		生命工	81	89
	1部合計		3,551	1,817
2部	経済	経済	190	−
		地域経済		
	経営	経営	120	−
	法	法律	182	−
		政治		
	人文	日本文化	43	−
		英米文化	23	−
	2部合計		558	−
1・2部合計			4,109	1,817
総合計			5,926	

法学部教授
神元（かんもと）　隆賢（たかよし）

トピックス46

交通事故と法整備

従来、交通事故については刑法典上の業務上過失致死罪（上限は懲役五年）が適用されていたが、重大悪質な交通事故に対応するため、平成一三年に危険運転すなわち酩酊運転、制御困難な高速度の運転、未熟運転、妨害運転、赤信号無視運転による人身事故を重く処罰する危険運転致死傷罪（上限は致傷で懲役一五年、致死で二〇年）が、平成一九年には危険運転に当たらない交通事故に関する自動車運転過失致死傷罪（上限は懲役七年）が新設された。

そして平成二五年、刑法典から危険運転致死傷罪と自動車運転過失致死傷罪を抽出し、高速道路の逆走等にかかる通行禁止道路運転を危険運転に含めたうえで、酩酊に至らない程度の準酩酊運転、てんかん等の病気運転を重く処罰（上限は致傷で懲役一二年、致死で一五年）、さらに無免許運転による加重処罰、飲酒運転での人身事故後の飲酒や逃走による飲酒発覚免脱罪を規定した「自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」が公布、翌年施行された。

わが国の交通事故発生件数は平成十六年から減少傾向にあり、一連の法改正は事故抑止に有効であったと評価できる。もっとも、小樽、砂川等、重大な危険運転事件は法改正後も後を絶たないし、増加しつつある高齢者の交通事故への対策にも重罰化は必ずしも有効といえない。

近い将来、アルコールを検知するとエンジンが起動しないアルコールインターロック搭載車や、危険回避に優れるオートパイロットシステム搭載自動運転車が、決定的な交通事故対策となりうる。これら新技術搭載車の実現に向けた法整備は急務である。

なお、平成二八年七月八日、むかわ町の道東道において、平成二三、二四年度の神元ゼミ幹事を務めた四宮裕太君（平成二六年卒）が、中央線を越えて逆走してきた対向車との正面衝突事故により急逝した。享年二四歳であった。この場を借りてお悔やみ申し上げるとともに、交通事故の撲滅を心から願ってやまない。【専門：刑法】

学長室から

ご満職によせて

本紙第3面には、3月31日をもってご満職なさる13人の教員と2人の事務職員から頂戴した、本学への思いを掲載しました。本学によせる篤いお気持ちを有り難く頂戴いたします。

この間、本学では、いわゆる教育改革がなされました。また、既設学部の改組転換（人文学部日本文化学科・同英米文化学科、法学部政治学科、経済学部地域経済学科、経営学科を母胎とする経営学部（経営学科・経営情報学科）および工学部生命工学科の設置など）だけでなく、大学院のあり方が全学的に論議され、様々な改組も行われました。

他方で、学校教育法施行規則、学校教育法、設置基準など、大学と大学院の存立の根幹に触れるような法改正が行われ、それに伴い、本学は諸規程を整備し、今後の方向性を定めました。

そのような中にあって、ご満職なさる方々は、それぞれのお立場から、本学をして北海道を代表する大学へと作り上げるためにご尽力くださり、慎重に審議を重ねて全学合意に至ることの重要性をお教えくださいました。これまでのご労苦にたいし、本学は衷心からお礼申し上げます。かくあれとの願いを込めて学生に接するため、教育と研究に、そしてその支援に意を用いることが、これまでに皆様から頂戴したご高配に応えることに繋がると思い、残る教職員はそれぞれの職責を全うすべく、微力を尽くす所存です。

ご満職を迎えられる教職員の皆様、長い間、有り難うございました。そして、お疲れ様でした。今後とも北海学園大学を温かい目で見守り、折りを見つけては本学にお運びくださいますようお願い申し上げます。【学長 木村和範】

研究室の窓

人文学部准教授
村中（むらなか）　亮夫（あきお）

津波地名の行方を追う

地理情報システム（GIS）による可視化・解析

私の研究室では、フィールドワークや社会調査に基づいて収集したデータを地理情報システム（GIS）で可視化・解析する研究に取り組んでいます。GISは様々な情報を地図化できる先端システムです。最近2年間は、公益財団法人国土地理協会からの研究助成を得て、立命館大学、徳島大学、東北大学の地理学者と共同で、岩手県三陸地方における津波に由来する地名「津波地名」の研究を進めてきました。

地名がその場所の自然特性に由来することは少なくはありませんが、なかでも津波地名は津波に遭った過去の事実が直接反映されることから、津波のリスクを後世に継承する情報媒体としての役割も期待されます。ただし、地名は宅地造成や区画整理によって改められることがあるほか、必ずしも正確に由来が伝達されるとは限りません。

そこで私たちは、明治時代、三陸沿岸に存在していたとされる津波地名の記録集『岩手沿岸古地名考』（1897）に着目し、情報媒体としての津波地名の可能性を検討し始めました。この資料には40箇所の津波地名が記載されていますが、本稿では岩手県釜石市鵜住居町田郷にある蛸カラカイという津波地名を紹介します（右下図を参照）。

資料によると、蛸カラカイはその昔、鵜住居川を遡上した津波によってタコやカラカイ（と呼ばれるもの）が打ち上げられたことによって名付けられた地名です。現地での聞き取り調査によると、当地ではタコを「タゴウ」と発音し、地名の田郷はタコそのものだといいます。

また、カラカイはエイの一種のカラゲイを指し、地図にはない田郷の中のごく限られた区域を指す地名のようです。結果として、現地では、蛸カラカイは田郷とカラゲイという名で確認されました。

この現地で確認された田郷・カラゲイと、復興支援調査アーカイブ（運営：東京大学空間情報科学研究センター）の東日本大震災浸水区域データをGIS上で重ね合わせると、非常に興味深い事実が浮かび上がってきます。東日本大震災の際の津波の遡上地点と田郷・カラゲイの位置がほぼ一致していたのです。

田郷・カラゲイは三陸沿岸から約4kmほど遡った場所に位置し、東日本大震災の際も隣接する日ノ神集落まで津波が遡上し、その集落には被災者のご遺体も流れ着いたといいます。また、図にはありませんが、上流には蛍貝や長持が漂着したことにより名付けられた津波地名も存在します。

これらを踏まえると、過去の津波で田郷・カラゲイ付近にタコやエイが打ち上げられたとしても不自然ではありません。

本研究は現在進行中であるため研究の結論はまだ出ていませんが、私は、このように地域の自然・災害特性を示す災害地名を調べるプロセスは、そのまま地理教育にも活用可能であると考えています。地理教育はとかく暗記に偏りがちですが、本来、地理教育は地理的見方・考え方を教える場であり、その見方・考え方の実践は、地域の自然環境との関わりのなかで営まれる人々の生活空間（地理・地誌）を理解することにほかなりません。

このような考えのもと、北海道の地理教育の一端を担う中高教員を輩出する本学において、これからも伝統的なフィールドワーク・社会調査の方法と先端的なGISの技術を身に付けた人材を育成していきたいと考えています。【専門：人文地理学、地理情報システム（GIS）】

図　GISによる調査データの処理画面

パラオ共和国大統領

学校法人北海学園および北海学園札幌高校訪問

パラオ共和国のトミー・メレンゲサウ大統領ご夫妻並びに政府高官が、平成28年12月8日学校法人北海学園および北海学園札幌高等学校を訪問した。

これは同国が道内の高校生との交流を希望していることから実現したもので、北海学園札幌高校体育館で開催された歓迎集会では、少林寺拳法部の演武や吹奏楽部による演奏が披露され、大統領一行は熱心に見入っていた。また、学校法人北海学園理事長、北海学園札幌高校校長、北海学園大学学長との歓迎昼食会が開かれ、なごやかな雰囲気の中、意見交換が行われた。

同国は西太平洋に位置する人口2万人ほどの島国で、かつて日本の委任統治領下の第二次世界大戦末期には激戦により多くの日本兵が犠牲となった。現在も親日的な国として知られ、日本とのさらなる友好関係に意欲を示している。

パラオ共和国メレンゲサウ大統領（左）と森本正夫学校法人北海学園理事長

絵画ギャラリー12

菱川 和子『風の戯れ』

教育振興会

留学生4人に奨学金給付

教育振興会では、昨年度につづき今年度も多くの皆様から、留学生への支援を目的にご寄付をいただきました。これにより在籍する留学生から4名を厳正に選考し、平成28年12月20日に学長（教育振興会会長）より1人当たり10万円の奨学金（奨学金C）を支給しました。

▼**奨学金受給者**　経済学研究科博士課程3年 金ナレさん／経営学研究科修士課程2年 趙爽さん／経済学部経済学科3年 ウォン インウン ジョバンさん／工学部電子情報工学科4年 クーン トビアスさん

左側2人目から金 ナレさん、クーン トビアスさん、趙 爽さん、ウォン イン ウン ジョバンさん

平成29年

新年交礼会

学校法人北海学園主催による新年交礼会が1月7日、札幌ガーデンパレスにて開催された。今年表彰された永年勤続者は次のとおり。

永年勤続・北海学園大学

▼**40年勤続**（教員）亀井伸照（法）

▼**30年勤続**（教員）加藤信行（法）、佐々木正規（工）、山ノ井高洋（工）、（職員）藤井勝彦（人文）、杉山匡（経済）、内山ゆか（学生）

▼**20年勤続**（教員）春日賢（経営）、田中昭憲（経営）、飯野海彦（法）、松戸清裕（法）、佐々木康彦（工）、杉山雅（工）、（職員）中山知幸（教務センター）、黒澤規央（経済）、高橋律裕（庶務）、油矢誠（経営）

▼**10年勤続**（教員）田中仁史（経済）、辻弘範（経済）、北原博（法）、千葉華月（法）、岡本浩一（工）、平田恵啓（工）、山本裕子（工）、（職員）村上友基（キャリア支援）、住吉崇人（図書館）、加藤大季（経営）

永年勤続・北海高等学校

▼**40年勤続**（職員）楠文彦

▼**30年勤続**（教員）菊地文宏

▼**20年勤続**（教員）大森和之、武藤恵美

▼**10年勤続**（教員）坪岡英明、中島正人、油谷哲郎

永年勤続・北海学園札幌高等学校

▼**40年勤続**（職員）竹村輝夫

▼**30年勤続**（教員）木内廣幸、天沼和哉、佐藤淳司

▼**20年勤続**（教員）元木靖夫

▼**10年勤続**（教員）河野訓人、小笠原香緒里

永年勤続・法人事務局

▼**20年勤続**　森田吉雄

▼**10年勤続**　中川裕之

年頭の挨拶を述べる森本正夫理事長

訃報

元法学部教授の高畑（たかはた）直彦（なお）先生（84歳）が平成28年11月22日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■**高畑 直彦先生**

《ご経歴》昭和32年北海道大学医学部卒業（医学士）、昭和37年北海道大学大学院医学部修了（医学博士号取得）、昭和38年北海道大学医学部精神神経科助手、昭和43年北海道大学医学部精神神経科講師、昭和51年北海道大学医学部精神神経科助教授、昭和53年札幌医科大学神経精神科教授、平成10年本学法学部教授、平成15年退職

退職教職員からメッセージ

経済学部教授
奥田　仁（おくだ　ひろし）

OBと学生の情熱と力

日本の大学生は勉強しないと言われます。私もかつて欧米の大学を訪問するたびにかなりの危機感を持ちました。しかし、この問題の基本は戦後日本の高等教育政策にあり、その中で特に本学の学生はよく頑張っているともいえます。地域研修で、北海道のいたるところで活躍している先輩を目のあたりにすると、学生たちは大いに励まされ、地域に役立つ調査報告をまとめようと張り切っています。確かに現在、従来の私学経営のパラダイムは転換が迫られていることは間違いありません。このような時こそOBと学生の情熱と力を信じることが何よりも大切だとおもわれます。言葉足らずですが、退職後も感謝を込めて、本学に心を寄せつづけていきたいと思います。

【略歴】昭和49年東京都立大学経済学部経済学科卒業（経済学士）、平成14年博士（農学・北海道大学）、昭和49年北海道農務部、昭和52年北海道立総合経済研究所研究員、平成4年本学経済学部助教授、平成7年同教授（北海道経済論など担当）、同大学院経済学研究科修士課程担当、平成15年同博士後期課程担当（北海道経済論特殊講義など担当）

【主な著書・論文】著書：『地域経済発展と労働市場』、『地域の社会・経済構造』、論文：「EUの地域政策」

経済学部教授
笠嶋修次（かさじま　しゅうじ）

自由な教育・研究環境に感謝

政府関係機関で実務家として17年間勤務した後、米国の大学院への留学、タイの大学での勤務を経て、本学で18年間お世話になりました。私に教員職が務まるか不安でしたが、自由な環境のもとで教職員の皆様の温かい支えもあり、充実した教育と研究を行うことができました。少子化で経営環境が厳しくなる中、本学が北海道の基幹私学として一層の発展を確かなものとされることを祈念します。

【略歴】平成9年米国ウィスコンシン大学経済学大学院博士課程卒業（Ph.D.）、昭和46年～62年中小企業金融公庫（現、日本政策金融公庫）、昭和54年～55年（財）国際開発センター研究員、昭和60年～61年国際協力事業団派遣専門家（タイ国工業省産業振興局）、平成9年～10年タマサート大学（タイ国）経済学部講師、平成11年本学経済学部教授（ミクロ経済学など担当）、平成12年同大学院経済学研究科修士課程・博士後期課程担当（理論経済学特殊講義Ⅰなど担当）

【主な著書・論文】『貿易利益を得るのは誰か』、論文：「Exchange rate regime, real exchange rate misalignment, and the current account: An intertemporal approach」、「日豪自由貿易協定の経済効果と地域経済に及ぼす影響」

経済学部教授
瀬川修二（せがわ　しゅうじ）

本学の発展を願って

これまで41年間、多くの熱心な学生たちに恵まれ、また自由に自分の研究をすることができたことは幸せであり、教職員、学生の皆さんに感謝申し上げます。本学がこれまで以上に発展していくことを心から願っています。

【略歴】昭和49年文学修士（北海道大学）、昭和51年北海道大学大学院文学研究科独文学専攻博士課程単位取得満期退学、昭和51年本学教養部講師、昭和59年同教養部助教授、平成8年同教授（ドイツ語Ⅰ～Ⅳなど担当）、平成10年同共通教育・研究センター教授、平成13年同経済学部教授

【主な著書・論文】『ドイツ フランス 中国 ロシア 韓国・朝鮮とその周辺地域の言語と文化』（共著）、論文：「ペーター・ハントケ『森のあれあれ』を運ぶルーシー』（1999年）について」

法学部教授
藤田　正（ふじた　ただし）

北海学園大学の未来を

私の北海学園大学での生活は四〇年に及びましたが、この間、大学に求められることは制度上も社会的にも大きく変わりました。教師も学生も全く様変わりしました。しかし、北海学園大学の学生が、基本的にとてもまじめである点は今も変わりません。ただ、もっと積極的かつ開放的であってほしいとぜっと思ってきました。

北海学園大学がみずからのアイデンティティを失うことなく、日本の大学を取り巻くこの不安定な時代を乗りこえてゆくことを切に祈っています。

【略歴】昭和49年法学修士（早稲田大学）、昭和52年早稲田大学大学院法学研究科博士課程単位取得満期退学、昭和51年本学教養部講師、昭和58年同助教授、平成6年同教授、平成10年同法学部教授（日本法制史など担当）、平成11年同大学院法学研究科修士課程担当、平成18年同大学院法務研究科担当（法制史）、平成20年同大学院法学研究科博士後期課程担当（法制史特殊研究Ⅰなど担当）

【主な著書・論文】著書：『日本近現代法史・年表と資料Ⅰ』（共著）、『日本立法資料全集旧刑法』（共著）、論文：「中央権力機構と官僚制」

人文学部教授
岩崎まさみ（いわさき）

感謝

フィールドワークを重視する文化人類学を学生に教える事は、教室の枠を超えた体験を学生と共有することへの挑戦であった。学外からスピーカーを招いたりする事はもちろんの事、学生たちを連れて学外へ出かけ、海外からの研修生との合宿、アイヌ集落での合宿、被災地でのボランティア活動など、学生たちと共に様々なところへ出かけて行き、多くの人々と出会った。フィールドでの学生たちは逞しく、眩しく輝いていた。地域で出会う人たちは北海学園大学の学生たちの良さを繰り返し褒めてくれた。その事が何より嬉しかった。このような北海学園大学での充実した現役時代に心から感謝します。

退職を機に、さらに広いフィールドへ出かけて行きます。こんどは学生を連れずに、一人で。

【略歴】平成6年アルバータ大学大学院人類学専攻博士課程修了、平成6年人類学博士（アルバータ大学）、昭和55年札幌大学非常勤講師、平成6年東海大学非常勤講師、平成7年北星学園女子短期大学助教授、平成9年本学人文学部助教授、平成13年同教授（比較文化論Ⅰなど担当）、平成15年同大学院文学研究科修士課程担当、平成17年同博士（後期）課程担当（英米社会文化特殊研究Ⅰなど担当）

【主な著書・論文】『アイヌ研究の現在と未来』、『捕鯨の文化人類学』、論文：「日本における北の海の捕鯨」

人文学部教授
川上武志（かわかみ　たけし）

冬来たりなば・・・

同僚教員また職員の皆様のご厚情により、15年間に渡る学園での教員生活を無事終えることができますことに、深甚の謝意を申し上げます。春秋長じ退職を迎える身にあっても、現今の大学を取り巻く厳しい状況に思い遣すことがあります。このような冬の嵐に立ち向かう皆様におかれましては、「建学の精神」をもって必ずや本学を発展させますよう懇望致します。

If winter comes, can spring be far behind?
(P. B. Shelley)

【略歴】昭和50年北海道大学大学院文学研究科修士課程修了、昭和50年文学修士（北海道大学）、昭和50年苫小牧駒沢短期大学講師、昭和52年北海道教育大学助手、昭和55年同講師、昭和60年同助教授、平成13年同教授、平成14年本学人文学部教授（英文学概説など担当）

【主な著書・論文】論文：「W・B・イェイツとアイルランド・ナショナリズム」、翻訳：「W・B・イェイツ著『幼年時代と少年時代の幻想』

人文学部教授
船岡　誠（ふなおか　まこと）

北海学園大学発展に期待

人文学部発足の年、平成5年に赴任してはや23年。まさに人文学部の成長とともに歩んだ23年でした。もっとも私のぼあいは牛歩のごとき歩みでしたが。それでも教職員・学生にめぐまれ、楽しくかつ充実した時をおくることができました。感謝いたします。

現在、大学をとりまく環境には厳しいものがありますが、教職員・学生が一丸となってそれに立ち向かわれんことを期待しています。

【略歴】昭和47年文学修士（明治大学）、昭和52年明治大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学、昭和59年放送大学非常勤講師、昭和63年明治大学一般教育兼任講師、昭和63年曹洞宗宗学研究所特別講師、平成4年聖心女子大学非常勤講師、平成5年本学人文学部教授（日本思想史など担当）、平成11年同大学院文学研究科修士課程担当、平成13年同博士後期課程担当（禅文化史論特殊講義など担当）

【主な著書・論文】『道元』、『日本禅宗の成立』、『沢庵』

工学部教授
小野恭平（おの　きょうへい）

回想と反省

①35年間、つたない講義にもかかわらずしっかり勉強してくれた（…と思う）学生たちに感謝。
②50年前、故郷をたつ日、田舎の駅のホームは桜の花が満開だった。あの日の志は果たせただろうか。
③私語の多さに悩まされた。ある日の授業中、やけに静かなので、いつもの騒がしい連中を見てみると、嗚呼、ケータイという新手の敵の登場だった。
④最終講義で学生たちからバラの花束をもらった。いい教師ではなかったのに、こんなことならもっと優しく教えればよかった。

【略歴】昭和53年北海道大学工学研究科建築工学専攻博士課程単位取得退学、昭和53年北海道工業大学教養部講師、昭和57年本学工学部助教授、平成元年同教授（日本建築史など担当）

【主な著書・論文】平安時代の山里（山荘）について、草庵の魅力―場所と建築に関して

工学部教授
桜井修次（さくらい　しゅうじ）

教育・研究を次世代へ

早いもので本学に奉職してから35年が過ぎ、平成29年3月をもって停年退職を迎えました。学士入学で2年間学生として在籍しましたので、合計37年本学にお世話になりました。

初期の教え子たちは50代半ばの年齢になり、道内外企業の社長や幹部職などに就き、社会人として立派に活躍しています。彼ら彼女らに在学生向けの就職講演をお願いしたことがありますが、久しぶりに再会するとその落ち着いた物腰に驚かされます。当たり前のことですが、皆成長し変化していく訳で、人を現状のまま固定した目で接してはいけないということをつくづく教えられます。

また彼らの子息たちが現在建築学科へ進学し授業を受けている姿を見ると、学問を次世代へ繋げていく中で、私学の雄としての本学が人を育てる使命とその責任の重さを実感しています。

【略歴】昭和53年北海道大学大学院工学研究科建築工学専攻修士課程修了、平成8年博士（工学・北海道大学）、昭和53年北海道美唄工業高校教諭、昭和57年本学工学部講師、昭和58年同助教授、昭和63年同教授（建築構造力学基礎Ⅰ・演習など担当）、平成7年同大学院工学研究科修士課程担当、平成14年同博士後期課程担当（建設工学特殊研究など担当）

【主な著書・論文】受賞：日本雪工学会学会賞（学術賞）、著書：日本建築学会「建築物荷重指針・同解説（執筆分担）、論文：日本建築学会「屋根面風圧と屋根雪分布との相互関係に基づく屋根雪の実用的偏分布評価法」

工学部教授
佐々木正規（ささき　まさき）

皆様ご壮健で

拙い授業に付き合っていただいた学生諸君と怠惰な私とともに働いていただいた教職員の皆様に厚く感謝致します。

着任致しましたのはバブル景気の只中でした。いま、子供じみた老人が世界を掻き回しています。大学に限ってみても、多くの困難と混乱が待ち受けているように思えます。学生、教職員の皆様がご壮健で、自らの意志と知恵をもって荒波を越えて進まれることを願っております。

【略歴】昭和54年北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了、工学博士（北海道大学）、昭和54年釧路工業高等専門学校電子工学科助手、昭和55年同講師、昭和60年同助教授、昭和62年本学工学部助教授、平成2年同教授、平成5年同大学院工学研究科修士課程担当

【主な著書・論文】共著：『演習電子回路』、論文：『ANALYSIS OF THE TRANSIENT TEMPERATURE DISTRIBUTION IN A STRIPLINE WITH TRIPLE-LAYER DIELECTRIC』、『非線形発熱による半導体材料の昇温特性』

工学部教授
佐々木康彦（ささき　やすひこ）

学園を巣立つ学生たちの健闘を祈る！

二十年前の初春、旧木造体育館がまだ残っていた山鼻キャンパスの工学部に赴任しました。その後は教職員の皆様の暖かなご支援によって、充実した教育と研究の学園生活を送ることができました。どうも有難うございました。

我が教員生活を振り返ると、学生たちとの時間は掛かるが人間関係も育める卒業研究指導の日々が思い出されます。

当初は研究テーマに押し潰されそうな卒研生も、年度末の発表会では自信に満ちた研究発表を見せてくれました。その勇姿を眺めることは誠に教員冥利に尽きるものです。学園を巣立つ学生たちの実社会での健闘を陰ながら祈っています。

【略歴】昭和54年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了、平成4年博士（工学・北海道大学）、昭和54年北海道大学工学部助手、平成9年本学工学部教授（構造力学、地震工学を担当）、同大学院工学研究科修士課程担当（構造動力学特論を担当）

【主な論文】論文：「強震動を受ける履歴構造―杭基礎・地盤連成系の履歴吸収エネルギー分担率」、「構造材料の配分最適化手法による最適な補強構造の形態に関する基礎的研究」、「コンクリートスティフサイロの構造不連続性を考慮した動的解析モデルと地震応答解析」

工学部教授
佐藤　謙（さとう　けん）

専門の追求と広い視野の形成

本学における43年半の教育研究生活。何よりも、多くの方のご支援によって生長させていただいたことに深く感謝している。

他方、常に、標題に挙げた二つのテーマが同時目標となって今に続いている。高山植物の研究という専門の追求と、生物学の世界を広く話す一般教育があった。自然の保護策や環境問題の解決策を考えると、専門の研究だけではなく経済・法律・工学など広い視野が必要であった。このような複層的なテーマは、職業人かつ市民として、どなたにも与えられる人生のテーマなのであろう。

皆さんとともに、専門はさらに深め、同時に、視野を拡げる勉学を続けたいと思う。

【略歴】昭和48年北海道大学大学院農学研究科修士課程修了、昭和48年本学教養部講師、昭和55年同助教授、昭和62年同教授、平成8年博士（学術）（広島大学）、平成10年同工学部教授（環境生物科学Ⅰなどを担当）

【主な著書・論文】単著：『北海道高山植生誌』、共著：『ここがみどころ日本の山、地形・地質から植生を読む』、論文：「アポイ岳と幌満岳の超塩基性岩植生」

工学部教授
竹内　潔（たけうち　きよし）

「春を待つ」若者たちへ

春4月、日本の学校では入学式があちらこちらで見られます。冬の長い眠りから覚め、気持ちのいい春の陽を浴びながらの新入生の登校は、本当に心を打つほどの新鮮さであふれています。小学校、中学校、高校、そして大学と、それぞれが異なる意を伝えながら学校生活が始まるフレッシュマンに大きなエールを送りましょう。そして、フレッシュマンたちの気迫が、それぞれの学校の教員にとっては、学びを共有するための大きなエネルギー源になるはずです。さあ、たくさん学び、そしてお互いが大きく成長してください。北海学園大学は、そんな学びの場なのです。

【略歴】昭和49年北海道大学理学部動物学科卒業、昭和54年理学博士取得（東京都立大学）、昭和54年ノースウエスタン大学分子生物・生物科学部門研究員、昭和56年ウッズホール海洋生物学研究所研究員、昭和57年ノースウエスタン大学医学部細胞生物学部門上席特別研究員、昭和58年ニューヨーク州立ロズウェルパーク記念癌研究所特別研究員、昭和62年タフト大学医学部生物医学研究所助教授、昭和62年ハーバード大学医学部分子生物学、精神神経科生化学部門助教授、平成3年北海学園北見大学教授、平成4年本学人文学部教授（現代科学論など担当）、平成22年同工学部教授（細胞生物学など担当）

【主な著書・論文】論文：「動物モデルを使った人病態の研究―人チェダック・ヒガシ症候群モデル動物（ベイジュ・マウス）の好中球プロテアーゼと阻害物質の生体制御機構を探る」、「アメリカのバイオベンチャー企業とバイオ産業―その黎明期：1970年代～1980年代―（The Rise of a New Industry in U.S. The Early Years of Biotechnology Companies? 1970s To 1980s）」、「アメリカのバイオテクノロジー戦略と日本のバイオ産業：グローバルな市場獲得のためのアメリカ国家戦略から学ぶ」

事務部長
木村勝照（きむら　かつてる）

感謝をこめて

1977（昭和52）年、北海学園大学を卒業し、民間に勤めた後、翌年法人に採用された。職員募集がある事を知らせてくれたのは、先に勤めた同期の藤本哲也君だった。在職中の思い出は尽きない。2年後、大学生部へ異動となり、課外活動に熱心に取り組む学生と真剣に向き合った。次の就職部では、就職活動を控え、急に礼儀正しくなった学生たちの姿にとまどった。卒業後みんな立派に社会を支えている。彼らとの知己が財産だ。

その後、会計課へ異動となり慣れない管理部門では、随分悪戦苦闘したが、みんなの支えがあった。「天は見ている」と思い踏ん張った。困ったときはどこからか援軍が現れてくれたし、自身もそうした存在でありたいと生きてきた。沢山の教職員・同窓に支えられ、健康で退職できる事に感謝します。本当にお世話になりました。

【略歴】昭和53年北海学園事務局書記、昭和55年学生部学生課書記、平成4年同主任、平成11年就職部就職課主任、平成14年事務部会計課係長、平成20年同課長、平成23年大学院事務部長（兼）学長秘書業務総括担当、平成25年事務部長

工学部教務長
藤本哲也（ふじもと　てつや）

北海道私学の名門へ

40年前、縁があり母校に卒業と同時に入職し、この度、無事停年を迎えることとなりました。この間、本学の目覚ましい隆盛を目の当たりにし、微力ではありましたが、その一翼を担えたことに対し深く感謝いたします。

今後は、北海道私学の名門として輝かしく発展するであろう本学を、また違った立場で見守っていきたいと思います。本学関係者の皆様には健康に留意され、益々ご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。

【略歴】昭和52年北海学園事務局書記、同年就職部就職課書記、平成4年同主任、平成11年工学部主任、平成13年同係長、平成20年同事務長

未来展望

このままでは危ない水道事業

水道の蛇口をひねるとあたり前に出てくる水。世界に誇る日本の水道技術だが、その水道事業は今、大きな課題を抱えている。本学経済学部OBで元日本水道協会調査部長の松明淳氏に問題提起を、余湖典昭工学部教授にその解説をしていただいた。

株式会社協友 取締役保険部長
松明　淳
経済学部経営学科
昭和49年度卒・7期生

私は大学卒業後、日本水道協会で40年間、水道事業の経営や水道技術の調査研究などに携わってきました。

現在、日本には約1万6000箇所の水道があり、そのほとんどが小規模な水道です。水道を利用している人は平成26年度で約1億2427万人、普及率は約98％、1年間の総給水量は約152億m³、これは琵琶湖の水量の約55％にあたります。しかし近年、人口減少や節水意識の浸透、節水機器の普及などにより、給水量は前年度比で約2億m³減少しています。

地方公共団体により経営される水道事業は、公営企業として一般会計から独立して運営され、水道料金で賄われています。給水量が減るということは、収入が減るということ。一方で、老朽化した施設・管路の更新や耐震性の強化などが急務となっており、このままでは資金的に厳しい事業体が多く、財源をどのように確保するかが大きな課題となっているのです。

収入減対策が急務

水道事業は、水道施設の建設・整備に要する費用が大きなウエイトを占める設備型産業ですが、配水管の法定耐用年数は40年。昭和40年代から50年代に水道施設の整備が進んだため、今後、大量の更新を迎えることになります。さらに、東日本大震災など大きな災害を経験し、水道を取り巻く環境は大きく変化しました。

厚生労働省は平成25年度に50年、100年先を見据えて「安全な水道」「強靭な水道」「水道サービスの持続」という新水道ビジョンを策定しました。水道事業に携わる、特に若い人たちが危機感を持ち、連携してこの課題にチャレンジしていかなければなりません。

【略歴】昭和50年本学経済学部経営学科卒業。元公益社団法人日本水道協会調査部長。平成28年厚生労働大臣賞受賞。

工学部教授
余湖　典昭

長年、日本水道協会で日本の水道界を牽引されてきた本学OBの松明さんが、昨年、厚生労働大臣賞を受賞されたとお聞きし、心からお祝い申し上げます。20年以上前に、毎年開催される全国水道研究発表会の懇親会で「私も北海学園大学の出身です」と声をかけていただきました。水道協会で本学OBが活躍されていることに大変驚くとともに、頼もしく感じました。以来、様々な形でご支援いただいたことを感謝しています。日本国内はもとより世界中の水道事情にも詳しい松明さんですが、その原点はアメリカンフットボール部を立ち上げ初代キャプテンを務めたパワーにあるようです。

技術・経営両面から

松明さんのお話にあるように、我が国の水道は大きな課題を抱えています。どこでも水道の蛇口をひねれば飲料水が出てくることが当たり前になりましたが、それを可能としたのは高度な技術開発と巨額の資金投入でした。「形あるものは壊れる」と言われるように、地中に埋められた水道管が老朽化しています。耐震化も急務です。料金収入増が期待できず、国や地方自治体の財政が厳しくなる中で、今後どのようにして水道事業の持続的経営を行っていくのかが大きな課題です。水道事業は、技術と経営の2本柱がかみ合って初めて信頼性の高いシステムとなるのです。社会環境工学科（土木工学科）の卒業生の多くが、道内自治体で水道事業の技術を支えています。将来の持続的経営を模索する日々と思いますが、経営面では本学の文系学部の卒業生の活躍を期待しています。

また、松明さんには、豊富なご経験を生かして、故郷北海道の水道事業を今後ともご支援いただきたいと願っています。【専門：水環境工学】

「伝えよう！ 地球温暖化」

みんなで学んで、みんなで行動!!

左から時事通信社解説委員・中川和之氏、経済学部・古林英一教授、北海道文化放送「みんなのテレビ」気象キャスター・菅井貴子氏

環境省主催の地球温暖化防止セミナー「伝えよう！地球温暖化」が12月16日、本学60番教室で開催された。共催は読売新聞社、時事通信社、本学開発研究所。

最初に「北海道の魚はブリ？―地球温暖化による水産物への影響」と題した本学経済学部・古林英一教授が講演。標津町のサケ漁など地域経済を支える漁業の現状を説明し、「温暖化による魚種や漁獲量の変化は地域の水産業を構造的に変える可能性がある」と訴えた。次に、北海道文化放送「みんなのテレビ」気象キャスター・菅井貴子氏が「近年、異常気象だと思うことが多くなった。地域や国、世界レベルで地球温暖化を考えることが必要」など、毎日の天気予報を伝える立場から話した。次に時事通信社解説委員・中川和之氏が、地球温暖化の要因は化石燃料を燃やすなど人間活動の影響がきわめて高いこと、地球温暖化により変わる気候などについて解説した。

最後は3氏と来場者で温暖化防止について意見交換。古林教授は「自分で考えて行動してほしい」、菅井氏は「〝知る〟ことが大事」、中川氏は「みんなで考えて行動していけば変わる」と呼びかけた。

学校法人北海学園とモンゴル文化教育大学
学術交流シンポジウム

モンゴルと北海道との共創

―交流拡大の可能性を探る―

基調講演を行うモンゴル文化教育大学 S.トムルオチル学長（右）

2015年9月に交流協定を締結した学校法人北海学園（北海学園大学、北海商科大学）とモンゴル文化教育大学との学術交流シンポジウム「モンゴルと北海道との共創―交流拡大の可能性を探る」が12月5日、モンゴル文化教育大学の牧原理事長らをお招きし、本学D20番教室で開催された。トムルオチル学長の基調講演の他に4つの報告が行われた。

モンゴルと北海道は、農畜産業、寒冷地住居・建設、物流などの分野で共通する特徴や課題があり、シンポジウムでは各分野から経済・文化等の交流拡大のための方策を考えた。

▼基調講演：「酪農、農業におけるエコ食品生産のモンゴルと北海道の共同事業の重要性」
モンゴル文化教育大学 Sトムルオチル学長

モンゴルの酪農業や農業の現状と今後の目標、さらに出資法や企業所得税法などを解説した。

▼第1報告：「モンゴルと北海道の交流について」北海道総合政策部国際局国際課長 工藤公仁氏

北海道とモンゴルの交流拡大に向けた取り組みを報告。昨年6月に日本・モンゴル経済連携協定（EPA）を発効し、「経済や技術交流、人的・学術交流を通じた幅広い関係構築を図っていきたい」と期待を寄せた。

▼第2報告：「北海道農業の現状と課題」本学経済学部 宮入隆教授

日本の食糧基地としての北海道農業の特徴と、労働力不足や6次産業化、多様な加工事業、新たな農業振興などの課題を報告した。

▼第3報告：「北海道を支える物流について」北海商科大学商学部 相浦宣徳教授

社会における物流の位置づけと、北海道物流の特異性と課題を解説した。導入が検討されている高速貨物新幹線について「広大なモンゴルで活用できるのでは」と話した。

▼第4報告：「〝POWER, POWER-1〟バイオ製剤のバイオケミカル結果と免疫力への影響」モンゴル国 農牧業科学研究所・畜産研究所 バダルチ ビャンバー博士

家畜の副産物を原料としたバイオ製剤（POWER, POWER-1）の特徴と、サプリメント製造の可能性について報告した。

在外研修報告
ドイツ　フライブルク大学

法学部教授
（フライブルク大学 国家学・法哲学研究所客員研究員）
菅原　寧格

大聖堂の鐘が鳴る、黒い森の麓を流れる空気と時間

フライブルクの街並み

2015年9月から1年間、わたしはドイツ・フライブルク大学にて在外研修を行いました。フライブルクは、1457年に創立されたドイツで5番目に古い大学を擁する古典的な大学街ですが、近年は、環境都市として世界中から視察に訪れる人が絶えない街として知られています。地理的にはドイツの南西バーデン・ヴュルテンベルク州の更に南西に位置し、スイス・フランスとの国境にも接した、黒い森への観光拠点です。また、5系統の市電が走り抜ける2つの門と大聖堂、石畳の脇を流れる水路が、この街の大きな特徴です。

市庁舎裏の路地

折しも、わたしの滞在はドイツに難民が押し寄せた時期と重なりました。「もし緊急事態に（難民に）優しい顔を見せたことについて、私たちが謝罪を始めなければならないとしたら、そんな国は私の国ではない」、このメルケル首相の言葉は、間違いなく多くの人々の心を揺さぶったと思います。しかし、パリ同時多発テロ事件やケルンの集団暴行事件を受け、この言葉から勢いを得たのは、皮肉にも右派の政党や市民団体でした。

このような政治の動向に注視しつつ、わたしは法哲学・法思想史の研究に励みました。研究の合間には街へ出かけ、生のドイツ文化と言葉に触れることも楽しみました。疲れたときは、黒い森へ連なる街の「裏山」に向かい、展望台から大聖堂を中心とする街並みを眺めました。ただ、市内に暮らす約400人の日本人との交流を求めることは無かったです。すると、そのためか日本語を話そうとしても口の動きが鈍くなってしまいました。また、ドイツ語がわからないので英語で話そうとしても、脳のスイッチを上手く切り替えることができなくなり、言語の迷子になることも珍しくありませんでした。

▲黒い森

シュヴァーベン門と市電

もちろん、日本語を忘れることはありませんでしたが、せっかく身に付いた僅かなドイツ語さえ流れ出ていく今日此の頃、フライブルクの日々が遠のくのを感じます。このような貴重な経験を積めたのは、何よりも教職員や学生をはじめとする関係者の皆さまより快く長期の在外研修に送り出していただいたお陰様です。ありがとうございました。

法学部（行政法）

現場の生の声 学生に刺激

▼札幌国税局講演会「ネット社会の進展と税務行政」「税の意義と国税庁の仕事」

札幌国税局・坂 信明 課税第一部長の講演

平成28年11月15日、1・2部法学部行政法Iの授業で、札幌国税局の坂信明課税第一部長及び山田和俊課税第二部次長をお迎えし、「ネット社会の進展と税務行政」「税の意義と国税庁の仕事」と題する講演会が行われた。

講演では税の意義、国税庁の仕事、申告納税制度、ICTを活用した取り組みなどが紹介された。学生からは「国税専門官を目指したい」、「税に興味を持った」などの感想が寄せられた。

▼札幌市 北川憲司氏講演会「このまちのために働く」

北川憲司氏

平成28年12月8、10日には札幌市豊平区市民部地域振興課長の北川憲司氏をお招きし、「このまちのために働く」と題する講演会が行われた。北川氏は2003年に日本初の自治体コールセンター「札幌市コールセンター」を開設。2006年からは円山動物園の経営再生を担当し4年間で入園者数を49万人から92万人に回復させた。2010年からは市長政策室シティプロモート担当課長として札幌市シティプロモート戦略を策定。2010年以降は札幌市観光企画課長を務め札幌市観光まちづくりプランを策定。さっぽろ雪まつりのプロジェクションマッピングや北3条広場のフラワーカーペットなど斬新な企画を次々と実現させた。現在は豊平区のまちづくりや住民組織振興に専念している。

学生からは「公務員に対するイメージが180度変わった」、「公務員は天使の仕事という言葉が心に響いた」、「人生の3分の1（仕事の時間）も幸せに過ごそうというお考えに感動した」などの感想が寄せられた。

（法学部教授・鈴木光）

文化遺産をたずねて No.5

ニトリ小樽芸術村

ステンドグラス美術館 アール・ヌーヴォーグラス館

［小樽市色内1丁目2-17］

歴史的建造物が幻想的な空間に

小樽隆盛期と同時期の芸術作品を展示

小樽は明治から昭和初期にかけて、石炭の積み出し港や貿易港、ニシン漁の拠点として繁栄し、「北のウォール街」と呼ばれる金融の一大拠点でもあった。その栄華を今に伝えるのが、小樽市指定歴史的建造物などの往時の建物群だ。

昨年7月23日、インテリア・家具小売業大手の株式会社ニトリホールディングス〈似鳥昭雄代表取締役会長（経済学部昭和40年度卒・13期生）〉が、その歴史的建造物を活用して「ニトリ小樽芸術村」を開設した。同芸術村総合プロデューサーの田中健氏と、支配人の天池風太氏に案内して頂いた。

昨年オープンしたのは、大正12年築の旧高橋倉庫を活用したステンドグラス美術館と、昭和10年築の旧荒田商会の建物を活用したアール・ヌーヴォーグラス館。

ステンドグラス美術館には、19世紀末から20世紀初頭にイギリスで制作され教会の窓を飾っていたステンドグラス約140点を展示。アール・ヌーヴォーグラス館には、同時代のヨーロッパで一世を風靡した作家の照明器具やガラス器約100点を展示している。「小樽の隆盛期は19世紀末から20世紀初頭にかけて。まさに、その同時代の美術工芸品を小樽の歴史的建造物で展示していることが当芸術村の大きな特徴であり、意義でもあります」と田中氏は語る。

ステンドグラスの多くはキリストや聖人など聖書の物語を描いた作品だが、第一次世界大戦の勝利記念や戦死者を追悼した作品など当時の情勢を表す貴重な作品も見ることができる。

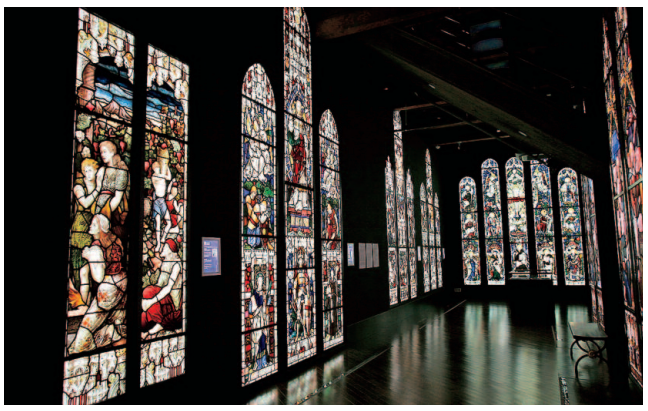
建物は、大豆を収める倉庫として建てられた木骨石造2階建。小屋組は梁を二重に架け2本の束を陸梁の中央付近で左右対称に立てるクイーンポストトラス（対束小屋組）と呼ばれる洋風の構造になっている。

作品は間近で鑑賞でき、「神とイギリスの栄光」（1919年頃）など吹き抜けに展示されているは作品群は圧巻だ。

アール・ヌーヴォーグラス館では、エミール・ガレやドーム兄弟、ルネ・ラリックやワルターらの名品を展示している。アール・ヌーヴォーは、浮世絵等、日本美術に刺激を受けてヨーロッパで広まった芸術運動。形やモチーフに動植物をよく用いることが特徴で、金魚や菊を描いた花器や陣笠形のランプなどは、当時の作家の日本への傾倒ぶりを示している。

今夏にはこれら2館に加え、同じエリアにある昭和2年築の旧三井銀行小樽支店と、大正12年築で小樽市指定歴史的建造物の旧北海道拓殖銀行小樽支店がオープン予定。当初、旧三井銀行小樽支店は日本近代絵画美術館にする予定だったが、「素晴らしい建築そのものをご覧いただくスペースに」（天池氏）変更された。

小樽の文化遺産を活用した芸術村の本格オープンは、時代と芸術という2つの切り口から小樽の魅力を捉え直すまたとない機会になることだろう。



▲ステンドグラス美術館にはキリストや聖人を描いた作品など約140点を展示。貴重な作品を間近で見ることができる

◀「神とイギリスの栄光」（1919年頃・イギリス）第一次世界大戦の戦勝記念と戦没者追悼の意味を込めてつくられた作品

「最後の晩餐」（1901年頃・イギリス）聖書の中でも劇的で象徴的な場面

ステンドグラス美術館（旧高橋倉庫）（写真左）とアール・ヌーヴォーグラス館（旧荒田商会）

左からニトリ小樽芸術村総合プロデューサー・田中健氏、木村学長、同支配人・天池風太氏

今夏オープン予定の旧三井銀行小樽支店内部

アール・ヌーヴォーグラス館の中央に展示されているランプ。幻想的な世界が広がる

▲旧三井銀行1階の金庫

◀同建物2階の会議室。絹の壁紙やカーテンも建設当時のまま

エミール・ガレの作品。この他、照明器具やガラス器約100点を展示

アセスメントテスト「大学生基礎力レポート」

新2年生対象に実施

個人分析 今後の参考に

北海学園大学では、昨年度からキャリア支援プログラムの一環として2年生向けにアセスメントテスト（学習到達度調査）「大学生基礎力レポート」を実施しています。このテストは全国70大学、約4万人の大学生が受検しているもので、本学でも昨年、2年生の80%、約1600人が受検しました。

一人一人に後日返却される『個人分析報告書』では、①大学生活（今までの行動や経験の振り返り）、②社会で求められる力（どのような経験をいつ積む必要があるか）、③将来の進路（進路適性・職業分野志向、今後必要な意識・行動）、④行動計画（今後の行動を具体化）についての分析が行われているので、それを読むことで客観的に自らを見つめ直し、自らの成長に向けてどのような行動を起こす必要があるかを把握することができます。

実施期間は在学生ガイダンス期間中の3月28日（1部経済・経営・法・人文学部）と29日（工学部と2部経済・経営・法・人文学部）です。

また、『個人分析報告書』返却後の5月下旬から6月上旬には、これまでの学生生活を振り返りつつ自らの考えで行動するきっかけを認識してもらうことを目的に、フォローアップ講習を開催します。

なお、アセスメントテスト「大学生基礎力レポート」は3年次で受検するアセスメントテスト「キャリア・アプローチ」とデータ連携が行われるので、3年次には経年変化に基づいたより精度の高い分析結果がフィードバックされます。

小樽商大とSD合同研修

職員交流の充実図る

平成26年に締結した国立大学法人小樽商科大学と学校法人北海学園との「合同SD研修覚書」に基づき平成28年12月13日（火）、本学から小樽商大へ、事務部庶務課学術・国際交流係の職員2名（高橋係長・熊谷書記）を派遣し事務研修が行われた。

今回は「国際交流事業の取り組みについて」をテーマに、午前の部では、両大学における教員のサバティカル制度、教員の海外での研究発表に関する取扱い等について意見交換を行い、午後の部では、学生留学時の危機管理体制に関して質疑応答をした後、小樽商科大学内にある国際交流関係施設の見学を行った。

左から小樽商大職員（2人）、木村勝照事務部長

また、平成29年1月24日（火）には、小樽商科大学の企画戦略課から職員2名（髙玉課長代理・飯名教育・組織戦略係）が本学に訪れ研修を行った。

午前中は、オリエンテーション（写真）に始まり、①「IR機能」について、②「地域に根差した大学教育」の取り組みについて、午後からは、①「自己点検・評価を継続的・効果的に実施する体制」について、担当者が説明し、質疑応答ならびに意見交換を行った。研修終了後、1時間ほど施設見学を行った。

設置形態が違う2つの大学ではあるが、事務研修を通し意見交換を行うことは両大学の職員にとって役立つものであり、今後も継続して両大学における職員交流の充実を図っていきたい。

長年の異文化交流

若井 清氏へ感謝状

本学で受入れた海外交換教員と35年以上に亘り交流を続けてきた若井清氏（豊平区）へ深い謝意を表し、12月21日感謝状を贈りました。感謝状文面は以下の通り。

「あなたは国際交流事業に深いご理解のもと海外の交流協定校から本学に派遣された数多くの交換教員にたいして永年に亘り親身にお世話をしてくださいましたここに本学はこれまでのご高配に深甚の感謝の意を表します」

感謝状を手にする若井清氏（左）

自著を語る 8

法学部教授　鈴木（すずき） 美佐子（みさこ）

「節目」と「筋道」をわかりやすく

本書は、司法試験受験雑誌『受験新報』に連載した同名の小文を、「ならば」という言葉を中心にまとめ加筆したものですが、この改訂第2版では担当科目「論理学」の答案やゼミで行ったディベートを材料に、「わかりにくさ」を少しでも減らして、論理の話が苦手な方の自学自習に役立つよう工夫したつもりです。

「論理」の「論」は言葉の集まり、「理」は筋目もしくは筋目をつけることだそうです。たとえば「理髪店」（古いですね）の「理髪」は、クシャクシャの髪にクシを入れ、きれいに筋目をつけて整えることです。とすると、「論理的思考」とは、言葉の集まりの筋目に気をつけ、筋道（つながり）を意識して考えること、とでも言えばよいでしょう。

思考のほとんどは実は論理的です。「32番教室で授業を受けた。だから、32番教室は存在しない」といった非論理的な事柄を考えるほうがむずかしいのです。それなのに「論理的に！」としきりに言われるのは、言いたいことの「筋道（つながり）」をコミュニケーションの相手につかんでもらうように努めるのをつい忘れてしまうからでしょう。自分の頭の中ではつながりがあり、他人にはわからないかもしれないと思わないため、「言葉のまとまりの筋目」を省略してしまう場合が多いように思います。

幼いころ、電池と豆電球をつなぐ理科の実験をしたことがあります。論理は電池と豆電球をつなぐ回路のようなものです。本書の表紙には豆電球の絵が描かれているのですが、豆電球がピカッと光るとき、私たちは腑に落ちます。

日々、膨大な量の入力がある配線を整理整頓し、自分の言葉のまとまりを他人の目でながめ、回路のつながりを示しながら出力をしたいものです。電球をうまく光らせるために意識してもらいたい「論理の言葉」のうち最強の「ならば」を考察したのが本書です。

思考のほうに少し重点を置いた『論理的思考の技法Ⅱ～三段論法と誤謬』とあわせてご一読いただければ幸いです。

『論理的思考の技法Ⅰ ―「ならば」をめぐって』（第2版）
法学書院 2013年

別海の四季 春 4

河﨑 秋子

春来たりなば 冬また来てみたり

寒いなあしんどいなあ、と口ずさみながら冬を過ごしていくうち、いつの間にか日没の時間が遅くなり、昼の気温も高くなっている。木の周りと黒い土が見えたところから順番に雪が溶けはじめたら、ようやく、長い冬が終わってくれる。真冬の寒さに身構え続けていた緊張から解放された反動なのか、妙に体が重く疲れを感じる。真冬には無縁だった風邪をもらいやすい時期でもあるので、油断は禁物だ。

ただ、ここ道東では、あくまで冬が終わったというだけの話だ。本当の春が来てくれるのはまだもう少し先のこと。どれだけ気温が上がっても、若葉が芽吹き始めたとしても、まだ安心はできない。思い出したように雪は降るし、冬用の作業着も手放せない。

さて今年の大型連休はどこに行こうか、などと浮かれていても、天気は本当に容赦がない。道東では数年に一度、ゴールデンウィークの真っ最中に吹雪がやってくる。何かの比喩ではなく、本当に、にわかに空はかき曇り、大粒の雪が吹き付けてくるのだ。さすがに冬本番のように何センチも積もることはないが、連休で浮かれた気分は台無しだ。観光名所はみんな一番のかき入れ時だろうに、何だか気の毒にもなってくる。

さて、根室地方の桜の開花はゴールデンウィークが明けてからになる。勿体ぶった遅咲きの花はさぞ華やかに、と思いきや、札幌の円山公園のように桜の花がみっちりと連なるソメイヨシノの風景とはほど遠い。寒冷かつ雪の少ないここの気候では、桜といえばエゾヤマザクラとチシマザクラ。ソメイヨシノはほとんど育ってくれないのだ。エゾヤマもチシマも花の密度は若干低く、おまけに開花と同時に葉が出てくるため、樹影はどうしても地味になる。

それでも、まばらに咲いたわが家の庭にあるチシマザクラから甘い香りが漂ってくると、どこか自然と心が浮き立ってくる。それは人間以外の生き物も同じのようで、ミツバチがせわしなく周囲を飛び回り、順番待ちをしながら花に頭を突っ込んでいる。

昨年は開花してから急に気温が下がり、雪さえ再びちらついていたせいか、花はなかなか散らなかった。低温だと昆虫の活動が鈍くなって桜の花も受粉が進まず、花が散らないのだそうだ。桜の花を長く楽しめるのはありがたいが、虫の困難やいつまでも枝に張りついていなければならない花のことを考えると、多少複雑な気持ちにもなる。

願わくは今年はうららかで温かな春を。毎年、祈るような気持ちでいる。

【経済学部平成13年度卒・49期生】

寒暖、一進一退の果てに咲く（提供：筆者）

部局紹介 7 山鼻キャンパス

山鼻キャンパス全景

工学部専用で設備も充実

1962（昭和37）年、現在の山鼻キャンパス（札幌市中央区南26条西11丁目1－1）の場所に北海短期大学土木科が開設された。工学部はこれを母体とし、1968（昭和43）年、寒冷積雪地域である北海道の開発・発展のために寒冷地工学の研究・教育を目的として、土木工学科と建築学科の2学科でスタートした。その後、約半世紀の間に電子情報工学科と生命工学科を設置し、現在の4学科体制となった。このように、山鼻キャンパスには、経済学部についで2番目に古い歴史がある。

◆◆◆

山鼻キャンパスの学生数（2～4年生）は940名（男子833名、女子107名）、大学院生9名、敷地面積16561㎡。小規模大学と同等の規模といえる。1～3号館、1～3号棟、実験実習棟、課外活動・厚生施設棟の8つの建物で構成され、15の教室と32の演習室、50の実験実習室がある。

事務の業務範囲は広く、教務、福利厚生や奨学金等の業務、キャリア支援、庶務・会計、医務室、図書館、キャンパス内の施設・設備の維持・管理など、入試業務以外のほぼ全般を行っている。

山鼻キャンパスは、2年生から4年生の専門科目を学修するための専用キャンパス。片野景祐工学部係長は「時期によって、建築学科の学生の作品が展示されていたり、電子情報工学科の学生がロボットを走らせていたり、社会環境工学科の学生が測量実習を行っていたりとまさに光景がみられるのは山鼻キャンパスならではです」と語る。

工学部では4年次に卒業研究を行うこともあり、先生と学生の距離が近いことも大きな特徴であり、魅力でもある。

さらに、山鼻キャンパスからはこれまでに約一万人の卒業生を輩出し、卒業生は道内外で活躍している。そして、設計事務所や建設会社など現役で働いている卒業生たちが、実務家の非常勤講師として後輩たちを教えている。平成29年度は、全非常勤講師の約2割にあたる27名が教壇に立つ予定だ。

◆◆◆

山鼻の行事としては、7月下旬に「実験生物に感謝する日」を設け、実験・実習に供された実験生物に対する慰霊と感謝の意を表する行事を執り行っている。8月上旬にはオープンキャンパスと体験学習、10月に工学祭、10月下旬に保護者懇談会を実施。キャリア支援も豊平と連携しながら、工学部生用にガイダンスや合同企業説明会を開催している。

また、工学部サークルが約20団体あり、課外活動・厚生施設棟の2階に部室がある。電子コーディング部など、工学部らしい団体も活動している。

◆◆◆

実は、山鼻キャンパスは交通の便が非常にいい。校舎前とすぐ横に、じょうてつバスの「北海学園大工学部前」停留所があり、札幌駅に向かうバスは平日207本、ほぼ5分おきに停車する。地下鉄「西11丁目駅」までは約9分で、乗り継ぎもスムーズだ。すぐ裏には藻岩山があり、四季折々の景色を間近に見ながら通学。昔から変わらず、授業の初めと終わりにチャイムが鳴るのも情緒がある。

片野係長は「山鼻キャンパスは、各学科の実験実習の施設を備え、じっくり勉強できるすばらしい環境が整っているので、機会があればぜひ山鼻キャンパスを見に来てほしい」と呼びかける。

様々な用件で訪れる学生すべてに対応する事務室受付（2号館）

工学部図書室（2号館）

1号館ロビー

学生自習室（3号館）

自由学習コーナー（1号館）

学生食堂と生協売店（課外活動・厚生施設棟）

第48回教養講座 北海学園落語会

12月19日、学園会館大会議室において本学学生部と北海商科大学の共同開催で教養講座「北海学園落語会」が行われた。

今年度は、学生たちに日本の伝統芸能である『落語（上方落語）』に触れてもらおうと企画された。

一人目は、帯広出身で北海道を活動拠点としている桂三段氏。二人目は、お笑い芸人「世界のナベアツ」として活躍し5年前に落語家に転身した桂三度氏。トリは、多くのバラエティー番組に出演し、NHKの連続テレビ小説にも出演して役者としても活躍しているベテラン落語家の桂きん枝氏。

会場（定員150名）は終始笑いに包まれ、多くの学生や教職員が落語を楽しんだ。

教養講座は毎年、様々な企画で好評を得ている。

桂 三段氏

桂 三度氏

桂 きん枝氏

ラクロス部（男子）国際大会に9名出場

昨年10月28日から30日までハワイで行われたラクロスの試合『2016 Hawaii Lacrosse Invitational Tournament』に、本学ラクロス部（男子）から9名が北海道地区男子ユース選抜の選手として出場した。

【出場選手】雪野智晴（経済学部経済学科2年）、安藤寛都（経済学部経済学科2年）青木治斗（経済学部地域経済学科2年）、佐藤洸介（経済学部地域経済学科2年）、太田悠翔（経営学部経営学科2年）、原田祐作（法学部法律学科2年）、小倉滉平（法学部法律学科2年）、豊木雄大（法学部法律学科2年）、桃井優輔（工学部建築学科2年）

試合後の記念撮影

スポーツ通して見聞広める

全日本学生柔道連盟 海外研修に参加

全日本学生柔道連盟の2016年度海外研修に本学柔道部の奥田知樹さん（経済学部地域経済学科4年）が選抜され、2月14日から22日までの日程でカナダ・アメリカで行われた研修に参加した。これは、柔道を通して見聞を広め、国際性を身につけることを目的とした研修で、学生は全国から各階級の選手15名、学生マネージャー1人、役員3名が参加した。

大田大学校（韓国）交換留学生 修了式挙行

去る2月13日、本学協定校である韓国・大田大学校から昨年4月より本学に留学していた学生3名の修了式を挙行した。皆、達成感に満ちた表情で修了証書を手にし、木村学長からは今後の活躍に対する期待と、日韓交流の発展に寄与してほしいとの言葉が贈られた。

前列左から鄭 ハンナ（ジョン ハンナ）さん、李 基勲（イギフン）さん、木村学長、張 榮玟（チャン ヨンミン）さん

ハンドボール国井杯 現役とOBの深い交流

昨年、創設40周年を迎えた北海学園大学体育会ハンドボール部は、インカレ出場を目指して日々練習に励んでいる。

同部では毎年、「国井杯争奪国井記念大会」を本学体育館で開催している。これは、現役とOB・OGの数チームがリーグ戦を行う交流戦。昨年4月で27回を数えた。

実はこの大会、1989年2月に第8代幹部の国井良哉氏（経済学部経営学科昭和61年度卒・19期生）が不慮の事故で亡くなり、一周忌にご両親からOB会「北凰会」へ送られた寄付金により、「創部15周年並びに北凰会設立10周年記念行事」の一環として1990年に第1回目が開催された。

第1回はOB・a（初代～第5代 15名）、OB・b（第6代～第9代 11名）、OB・c（第10代～第11代 13名）の3チームと、現役2チームが参加した記録が残っている。

この記念行事のお知らせ書面に、北凰会会長・星保信氏は「彼ほど現役中、卒業後を含めチームのことを気にかけてくれていた人はいなかった」と綴っている。

故人のハンドボールへの熱い思いとご両親の意志をくみとり、「国井杯」は、現役とOBとのつながり、OB同士のつながりを深める大切な行事として、これからも受け継がれていくことだろう。

経営学部3年 笹本 拓実

公認会計士試験 本学初の現役合格

会計系の国家試験の中でも最高峰といわれる公認会計士試験に昨年11月、本学経営学部経営情報学科3年の笹本拓実さんが見事合格した。願書提出者数10256人、最終合格者1108人、合格率10・8％という難関だった。

大学に入るまで簿記も知らなかったという笹本さんは、入学直後の会計リテラシーの授業で簿記に興味を持ち、検定試験を検討した。「会計の仕事は全世界に通じるもので、資格があれば武器になる。どうせなら公認会計士を目指そう」と、1年次の5月から専門学校の大原にも通って資格試験の勉強を始めた。

大学生活の全てをかけて勉強

2年次の12月に1次試験（短答式・4科目）、3年次の8月に2次試験（論文式・6科目）をそれぞれ1回で突破。そこに至るまで地道な努力を続けた。「朝8時に大原に行き、大学の授業があるときはそこから大学へ。そしてまた大原に戻って、一日12時間から16時間勉強しました」。

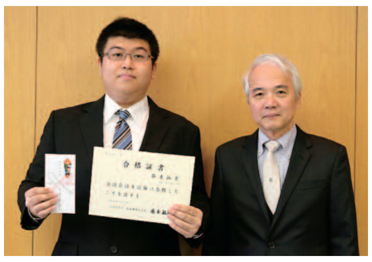
模試の結果をバロメーターにしながら、その日その日で勉強スケジュールを立て、苦手科目も克服。「大原のロッカー3つ分が教材でいっぱいになりました」と振り返る。モチベーションとなっていたのは「ここまでやって受からないと意味がない。絶対受かりたい」という強い気持ちだったという。

大学の勉強との相乗効果もあったようだ。特に今村聡教授のゼミで学んだ財務会計や原価計算は試験勉強にも役立った。

公認会計士試験に合格した後は、2年以上の実務経験と、実務補習を受けて修了考査の試験に合格し、晴れて公認会計士となれる。

笹本さんは日本の4大監査法人の一つ、新日本有限責任監査法人に内定し、2月から監査法人の研修が始まった。卒業後は「まずは札幌でバリバリ働き、将来は札幌だけではなく東京での仕事も経験したいと思います」。

学生生活の全てを試験勉強に捧げたといっても過言ではない。同じ道を目指す後輩たちには「とにかく（勉強を）やるしかない」とエールを送る。



公認会計士試験に合格した笹本拓実（経営学部3年）（左）。学修奨励金授与式にて

教育振興会から学修奨励金給付

笹本さんに対して教育振興会から学修奨励金が給付となり2月3日、経営学部長・石嶋芳臣教授、今村聡教授、教育振興委員長・高木裕之教授、事務部長、大学院事務部長同席の下、木村学長から手渡された。

卒業研究発表会

4年間の集大成となる卒業研究発表会が人文学部と工学部で行われた。鋭い質問に的確に答えるなど、充実した発表だった。内容は次の通り。

【人文学部卒業研究コンテスト】（2月7日）

▽最優秀賞：日本文化学科・川越ひかる『源氏物語』における花散里の役割と人物像」▽優秀賞：日本文化学科・加賀田咲『源氏物語』内引歌の後世に与えた影響―「人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道にまどひぬるかな」を例に―」、英米文化学科・福井花也「芸術作品とみるギリシア神話世界の美女たち」▽敢闘賞：日本文化学科・二木遥、日本文化学科・棟方ひかり、日本文化学科・橋本尚哉、英米文化学科・川上巧太

【工学部社会環境工学科 研究室と発表者人数】（2月16日・21日・23日）

▽「構造系」高橋義裕研究室7人、小幡卓司研究室7人、佐々木康彦研究室7人、計21人 ▽「土・施工・計画系」堂柿栄輔研究室7人、武市靖研究室6人、上浦正樹研究室7人、小野丘研究室5人、計25人 ▽「水・環境系」余湖典昭研究室7人、嵯峨浩研究室6人、山本裕子研究室7人、許士達広研究室7人、計27人

【工学部建築学科 卒業設計発表会】（2月14日）（氏名、テーマ）

▽最優秀賞：佐藤優太「六冬の群像―市庁舎の境界を解く―」▽優秀賞：八木悠『―そして「　」は彼らを想う―』▽奨励賞：酒井就章『時間旅行路―「国鉄旧手宮線」と巡る小樽の時間―』

【工学部建築学科（論文）研究室と発表者人数】（2月23日）

佐々木博明研究室4人、真柄祥吾研究室2人、串山繁研究室2人、足立裕介研究室14人、小野恭平研究室3人、石橋達勇研究室10人、岡本浩一研究室10人、佐藤哲身研究室4人、杉山雅研究室11人、桜井修次研究室6人、計66人

【工学部電子情報工学科 研究室と発表者人数】（2月6日・7日）

魚住純研究室8人、菅原滋晴研究室3人、大西真一研究室9人、元木邦俊研究室5人、菊地慶仁研究室10人、内田ゆず研究室10人、高氏秀則研究室9人、計54人

【工学部生命工学科 卒業研究優秀発表賞】（2月6日・7日）（氏名、テーマ）

▽「生命工学系」山崎義洋「難治性炎症の治療を目指したMIFワクチンの意義と開発戦略」、富原優子「コマクサの種内判別におけるTrnL-F spacer領域の有効性」、小林拓斗「新規MIF DNAワクチンによる炎症抑制実証試験」、安宅司「新規Thエピトープを組み込んだMIF DNAワクチンの構築」、森陽子「概日時計はどのように器官サイズを制御するか―hyccal, toc1, ztl 変異体の解析―」▽「人間情報系」奥田由佳「twitterに基づくニューラルネット対話システム」、吉村尭倫「LDAを用いた文書からの重要文抽出システム」、田上諒「畳み込みニューラルネットを用いたフィクション上のキャラクターの性格推定システム」、伊藤皇徳「検索サイトを利用した質問応答システム」、一宮真理香「Jins MEMEからの加速度データの取り込みと表示アプリの開発」、三浦範大「Raspberry Pi3を用いたIOT監視システムの構築」

社会環境工学科 卒業研究発表

人文学部卒業研究コンテスト表彰

建築学科 卒業設計最優秀賞・佐藤優太（右）

建築学科 論文発表

電子情報工学科 卒業研究発表

生命工学科 卒業研究発表

人文学部3年 中村 遥

全道ロシア語弁論大会2位

第48回全道ロシア語弁論大会が昨年11月26日、道庁赤レンガ庁舎で行われ、人文学部日本文化学科3年の中村遥さんがAクラスで2位に入賞した。

Aクラスは、5分間のスピーチと簡単なロシア語による質疑応答、ロシア語詩の暗唱朗読で審査される。

中村さんのスピーチのテーマは「書道のパワー」。2年次の2月から約2カ月間、サハリン大学へ留学した際に日本フェスティバルで書道を披露した経験から、お互いの文化を知ることの大切さを話した。詩の朗読は、アレクサンドル・ブロークの詩をメロディーにのせて唄い、会場を盛り上げた。いずれも、寺田吉孝教授の指導を受けながら何度も練習した成果だ。

ロシア語を始めたのは2年次から。まったく未知の言語は全てが新鮮だった。弁論大会へ向けての勉強もさらなるスキルアップとなり、「ロシア語がより楽しくなった」と話す。

2位という結果に「もうちょっと勉強すれば1位が見えたかも」と悔しさものぞかせながら、「6歳から大学1年まで書道を続け、こういう形で活かせて良かった」と充実の表情で語った。

弁論大会で書を見せながらスピーチする中村遥（人文学部3年）

経済学部 地域研修 経営学部 企業研修

経済学部2016年度地域研修報告会が11月26日と12月3日に行われた。今年度は22ゼミ、計307名の学生が履修した。また、経営学部2016年度企業研修成果報告会が11月18日と25日に行われた。今年度は30名が履修した。内容は以下の通り。

経済学部 2016年度「地域研修」ゼミ・研修地・テーマ〈参加：22ゼミ　計307名〉

ゼミ	研修地	テーマ
浅妻裕ゼミⅠ・Ⅱ 2部浅妻裕ゼミⅠ	札幌市・北見市 美幌町	現場で学ぶ廃棄物処理の現代的課題
内田和浩ゼミⅠ	留萌市	留萌市の「三省堂書店を応援し隊」とライフヒストリー
大貝健二ゼミⅠ	帯広市・音更町・芽室町 中札内村・上士幌町	農・食を軸とした十勝地域の産業の実態と支援のあり方
大貝健二ゼミⅡ	新潟県燕市 三条市	新潟・燕の金属加工産業の現状と課題（研磨を中心に）
川村雅則ゼミⅠ	札幌市	学生アルバイトをめぐる問題
川村雅則ゼミⅡ	札幌市	若年労働者の過重労働、過労死問題
奥田仁ゼミⅡ	函館市	新幹線開業を契機とした函館地域経済の展望について
佐藤信ゼミⅠ	枝幸町	歌登地区の地域おこし協力隊と観光の取り組み
佐藤信ゼミⅡ	石狩市	石狩市における自治体合併10年後の地域づくり
中囿桐代ゼミⅠ・Ⅱ	ニセコ町	ニセコ町における産業振興と人材育成
徐 涛ゼミⅠ・Ⅱ 2部徐 涛ゼミ	旭川市	外国人観光客誘致の実態調査：旭山動物園
西村宣彦ゼミⅠ・Ⅱ	江差町	新幹線時代の道南・江差町の「観光まちづくり」
平野研ゼミⅠ・Ⅱ	陸別町	陸別町における地域振興商品開発とフェアトレード
古林英一ゼミⅠ	函館市	イカを中心とした地域経済の構造を理解する
古林英一ゼミⅡ	浦河町・新ひだか町 様似町・日高町	日高地方における軽種馬の生産・育成・流通
水野邦彦ゼミⅠ・Ⅱ	月形町 当別町	北海道開拓当初の囚人労働を学ぶ
水野谷武志ゼミⅠ・Ⅱ	厚沢部町 木古内町	過疎地域のまちづくり
宮入隆ゼミⅠ・Ⅱ	仁木町 余市町	果樹産地の現状と農業による地域活性化の可能性
山田誠治ゼミⅠ	余市町 小樽市	地域ブランドを生かした余市町の課題
山田誠治ゼミⅡ	沖縄県北谷町 那覇市・読谷村	沖縄の観光振興の現状と課題

経営学部 2016年度「企業研修」派遣先・日程〈派遣先：12社・団体、参加：30名〉

派遣先	実施研修日程
鶴雅リゾート	8/20〜9/2
大原学園	8/17,19,20,24,26,28-30,9/2-3
キャリアバンク	8/29〜9/9
ケイシイシイ	9/1〜9/14
ソーゴー印刷	8/17〜8/27
野口観光	9/6〜9/19
パナソニック システムネットワークス システムソリューションズジャパンカンパニー 北海道社	8/22〜9/2
富士通エフ・オー・エム	8/24〜9/6
プリプレス・センター	8/22〜9/2
北海道中小企業家同友会	9/5〜9/16
丸水 札幌中央水産	9/1-3,5-10,12
モロオ	8/16〜8/26

人文学部 田中綾ゼミ

ゼミ誌完成

日本近現代文学研究と小説や詩などの創作を行っている田中綾ゼミから、2016年度のゼミ誌『A207』（1部）と『道標』（2部）が刊行された。執筆はもとより、編集、表紙デザインなどすべて学生たちの手で作り上げ、いずれも力作ぞろいの冊子となっている。

平成28年度

出前講義実績

本学教員が直接高校を訪問して講義を実践する出前講義や高大連携授業が平成28年度も実施され、派遣実績は57校、105講義、受講人数は3316名だった。これは、高校生に大学の講義の雰囲気を味わってもらい、学問の楽しさ・面白さを知ってもらうことを目的に行われている。進路決定や将来勉強することになる専門分野の知識、情報の取得にも役立つため、毎年、多数の高校から申込みを受け、好評を得ている。

平成28年度の実施実績表は下記のとおり。

11月9日、札幌国際情報高校で内藤永経営学部教授の出前講義

月日（曜）	高校名	派遣教員	テーマ
5月 9日(月)	天塩高校	関谷浩行	100円ショップの儲けのカラクリ
31日(火)	札幌英藍高校	平野 研	経済王に、俺はなる！〜グランドライン編
31日(火)	札幌英藍高校	今野喜文	あなたはユニクロとしまむらの違いがわかりますか?!
31日(火)	札幌英藍高校	神元隆賢	SNSと刑法
6月13日(月)	札幌西陵高校	関谷浩行	1杯650円のラーメンは1日に何杯売れば利益がでるか？
14日(火)	石狩南高校	佐藤大輔	経営学とは何か－経営学と経済学の違いを知ろう
22日(水)	札幌南陵高校	石橋達勇	ハンドル形電動車いすが使われる空間について考えよう
23日(木)	浜頓別高校	赤石篤紀	「大事なおカネに関する常識episode2」〜億万長者への道〜
23日(木)	函館中部高校	吉田 充	目のつけどころで勝利しよう
24日(金)	苫小牧南高校	館田晶子	多数決で決められないこと
24日(金)	苫小牧南高校	大平義隆	『ソトもの、ワカもの、バカもの』が組織の未来を開く
24日(金)	札幌創成高校	関谷浩行	100円ショップの儲けのカラクリ
27日(月)	札幌厚別高校	山本健太郎	18歳選挙権と海外の動向について
28日(火)	函館高校	田中昭憲	スポーツに必要な基礎的動作の能力アップ法
28日(火)	札幌光星高校	今野喜文	コカ・コーラの強さのヒ・ミ・ツを教えます!!
7月 9日(土)	夢ナビライブ(東京)	田中 綾	作家はみんな、「検閲」を受けていた
15日(金)	室蘭清水丘高校	館田晶子	多数決で決められないこと
15日(金)	北海高校	川村雅則	職業観に関わる講話会（現代社会における労働実態など）
19日(火)	北見柏陽高校	竹内 潔	細胞の話〜ips細胞と受精卵はどう違うのか〜
19日(火)	遠軽高校	増地あゆみ	「集団は賢いか」〜体験ゲームを通じて考える〜
21日(木)	帯広柏葉高校	山ノ井髙洋	脳波でロボットを操作する
21日(木)	旭川永嶺高校	今野喜文	あなたはユニクロとしまむらの違いがわかりますか?!
22日(金)	倶知安高校	秦 博美	自治体の活動と法的問題
22日(金)	倶知安高校	上野之江	英語プレゼンテーションABC
22日(金)	帯広緑陽高校	四ッ谷有喜	身近な事例で民法入門！
22日(金)	旭川西高校	今野喜文	コカ・コーラの強さのヒ・ミ・ツを教えます!!
8月 7日(日)	高大連携授業	川村雅則	若者が切りひらく雇用の未来（あした）
7日(日)	高大連携授業	大貝健二	パンが地域を変える？ －十勝の挑戦－
8日(月)	高大連携授業	大平義隆	三モノは組織を救う
8日(月)	高大連携授業	上浦正樹	新幹線が北海道にやってくる
8日(月)	高大連携授業	淺野高宏	<働く>前に知っておきたいワークルール10か条
25日(木)	厚岸翔洋高校	菊地慶仁	サイエンティフィックビジュアリゼーションの入口
30日(火)	旭川北高校	中川かず子	日本人の発想と日本語－英語との比較から
9月14日(水)	岩見沢西高校	淺野高宏	大学と職業を考える講話
14日(水)	留萌高校	西村宣彦	あなたの町は大丈夫ですか？〜自治体財政の見方・考え方
15日(木)	北見柏陽高校	鈴木聡士	新エネルギーを考える〜意識・環境・費用の視点から
15日(木)	青森県立青森東高校	田中 綾	小説のヒミツ、おしえます。
24日(土)	羅臼高校	山田誠治	ネット社会の進展と人間関係の変容（高校生にスマートフォンはいらない！？）
27日(火)	伊達緑丘高校	大貝健二	スプーンから見えるグローバル化
28日(水)	札幌東陵高校	岡本直貴	「法学入門」なのだ
10月1日(土)	夢ナビライブ(仙台)	大貝健二	パンが地域を変える？ －北海道・十勝の挑戦－
14日(金)	深川西高校	関谷浩行	100円ショップの儲けのカラクリ
18日(火)	釧路湖陵高校	岡崎敦男	第2の地球を捜す
18日(火)	釧路湖陵高校	佐々木博明	空気による暖房と給湯〜ゼロエネルギー住宅をめざして〜
18日(火)	釧路湖陵高校	佐藤哲身	コンサートホールの音響
18日(火)	釧路湖陵高校	高橋考太	生命の尊厳とバイオテクノロジー〜生命倫理学入門〜
18日(火)	釧路湖陵高校	真柄祥吾	地震による建物の被害について
18日(火)	釧路湖陵高校	元木邦俊	声が出る仕組み
18日(火)	釧路湖陵高校	山ノ井髙洋	ヒト視覚をもった自律移動ロボット
18日(火)	青森県立青森北高校	吉田 充	目のつけどころで勝利しよう
20日(木)	北星学園女子高校	庄司樹古	なぜ、あの会社は儲かるのか？－アメトーークのビジネスモデル－
21日(金)	利尻高校	菅原寧格	法学部で学ぶということ
26日(水)	札幌清田高校	川村雅則	働くこと講演会「若者の雇用・労働—人間らしい働き方とは」
28日(金)	札幌藻岩高校	佐藤大輔	“新しさ”を生み出す学問としての経営学
28日(金)	札幌藻岩高校	田中 綾	芥川龍之介も太宰治も・・・作家はみんな〈検閲〉をうけていた
11月2日(水)	上ノ国高校	庄司樹古	なぜ、あの会社は儲かるのか？－アメトーークのビジネスモデル－
2日(水)	名寄高校	神元隆賢	SNSと刑法
8日(火)	札幌旭丘高校	田中 綾	芥川龍之介も太宰治も・・・作家はみんな〈検閲〉をうけていた
8日(火)	江別高校	矢村 宏	刑事裁判四方山話
9日(水)	札幌清田高校	今野喜文	コカ・コーラの強さのヒ・ミ・ツを教えます!!
9日(水)	札幌国際情報高校	内藤 永	グローバル企業ではどのような英語が使われているの？
9日(水)	札幌国際情報高校	伊藤友章	スポーツだってマーケティング
9日(水)	札幌啓北商業高校	関谷浩行	100円ショップの儲けのカラクリ
16日(水)	有朋高校	川村雅則	若者と労働について
17日(木)	札幌平岸高校	田中 綾	小説のヒミツ、おしえます。
18日(金)	高文連石狩支部新聞専門部	田中 綾	あなたの手紙、開封しました――被占領期における札幌市のGHQ検閲について
18日(金)	枝幸高校	赤石篤紀	金融知識の理解
18日(金)	旭川商業高校	庄司樹古	なぜ、あの会社は儲かるのか？－アメトーークのビジネスモデル－
29日(火)	小樽潮陵高校	浅妻 裕	経済学とは何か〜廃棄物・リサイクル問題から考える〜
29日(火)	小樽潮陵高校	神元隆賢	法学部とは？（法学部で学ぶこと）
30日(水)	札幌琴似工業高校	川村雅則	若者の雇用・労働－人間らしい働き方とは－
12月2日(金)	池上学院高校	佐藤 信	日本の人口減少-何が問題か
2日(金)	中標津高校	菅原寧格	法学部説明及びその後の進路（就職）について
6日(火)	札幌西陵高校	庄司樹古	なぜ、あの会社は儲かるのか？－アメトーークのビジネスモデル－
6日(火)	とわの森三愛高校	大貝健二	スプーンから見えるグローバル化
6日(火)	倶知安高校	古谷嘉一郎	<テーマ1>人づき合いにいかせる心理学のアイデア<テーマ2>クイズや体験で学ぶ人の行動
6日(火)	倶知安高校	逸見宣義	経済学とは何か？
8日(木)	札幌手稲高校	佐藤大輔	総合学習「学び体験ゼミ」1
9日(金)	札幌北高校	福田都代	国際機関で多国籍の人々と働く：ユネスコでの経験から
12日(月)	ニセコ高校	増地あゆみ	「集団は賢いか」〜体験ゲームを通じて考える〜
13日(火)	有朋高校	山田誠治	ネット社会の進展と人間関係の変容
15日(木)	札幌手稲高校	佐藤大輔	総合学習「学び体験ゼミ」2
21日(水)	札幌白陵高校	髙橋考太	「生命の尊厳とバイオテクノロジー」〜生命倫理学入門〜
1月19日(木)	札幌手稲高校	佐藤大輔	総合学習「学び体験ゼミ」3
26日(木)	札幌手稲高校	佐藤大輔	総合学習「学び体験ゼミ」4
3月16日(木)	鵡川高校	神山義治	「企業と労働」〜働く私たちの人間らしさと経済〜

キャリア支援センター（略字については用語集を参照。）

平成29年度卒業生 就職活動本格化

3月1日から企業の採用に関する広報が開始され、就職活動が本格化しました。学内外で開催された合同企業説明会や単独説明会にも多くの民間企業志望者が参加していました。

採用広報開始となった3月1日の学内企業説明会

採用広報開始

しかし最近人事担当者から「知名度がないので学生が受験してくれない」と言われます。所謂「B to B」と呼ばれる企業です。

そういった企業が2月まで業界研究会に参加したり、インターンシップを開催しても、「知らない企業」の認知度はなかなか高まらないのが現状です。

知名度はなくても、堅実経営で社会からの信頼が厚い企業はたくさんあります。「知らない企業」にこそ出会いのチャンスがあるかもしれませんので、ぜひ企業を「知ろう」とする機会を増やしていただきたいと思います。

◆　◆　◆

就職活動は企業が学生を選考する場ではありますが、同時に学生が企業を選ぶ場でもあります。耳あたりの良い言葉に騙されず、人を大切にする企業かどうかも重要な企業選択のポイントの一つと言えます。

◆　◆　◆

企業選択を慎重に

◆ブラック企業◆

年に何度か話題になる「ブラック企業」。ブラック企業という呼称に明確な決まり事はありませんが、このように呼ばれる企業にはいくつか特徴があります。

◆　◆　◆

①社員数に対して募集人数が多い。

毎年相当数の離職者がいる可能性があります。※事業拡大などで人員増をする場合もあります。

②「一緒に夢を掴もう！」「希望あふれる職場」など、良いイメージの言葉が並ぶが、具体的な業務説明がない。

具体的な話になると急に口ごもる傾向にあります。企業訪問は歓迎されない場合もあります。

③基本給が他社と比較して異常に高い。

「残業代込」や「年俸制」などが表記されておらず、額面上は高くても実際の労働時間で割ると格安になる可能性があります。また、新卒では難しい仕事でも、「やればできる」等、精神論等でごまかす場合があります。

④説明会の場で即内定を出す。

人物評価をすることなく内定を出すということは、頭数を揃えることだけ考えている可能性があります。使い捨てにならないよう注意が必要です。

⑤人事の印象が良くない。（高飛車、威圧的、疲労感など）

上役の人が会場の後ろで足組み・腕組みし、睨みつけるように（もしくは見下すように）部下の説明を見ていることがあります。

⑥公衆の面前で上司が部下を怒鳴りつけている。

ときには厳しさも必要ですが、このようなことが常態化している企業かもしれません。部下に「仕事とプライベート、どっちが大切なんだ!!」と言っていた企業もありました。

⑦社内が汚い。

受付やトイレなど、お客様も利用するところに気を遣えない企業はやはり人を大切にしない企業だと思います。

⑧平均年齢が低い。

離職者が多く若い社員しか残っていない場合があります。※設立間もない企業は平均年齢が低くなってしまうこともあります。

◆　◆　◆

◆スケジュール◆

日本経済団体連合会と就職問題懇談会の申し合わせにより、2018年入社対象の就職活動スケジュールは3月採用広報開始・6月選考という指針が発表されました。

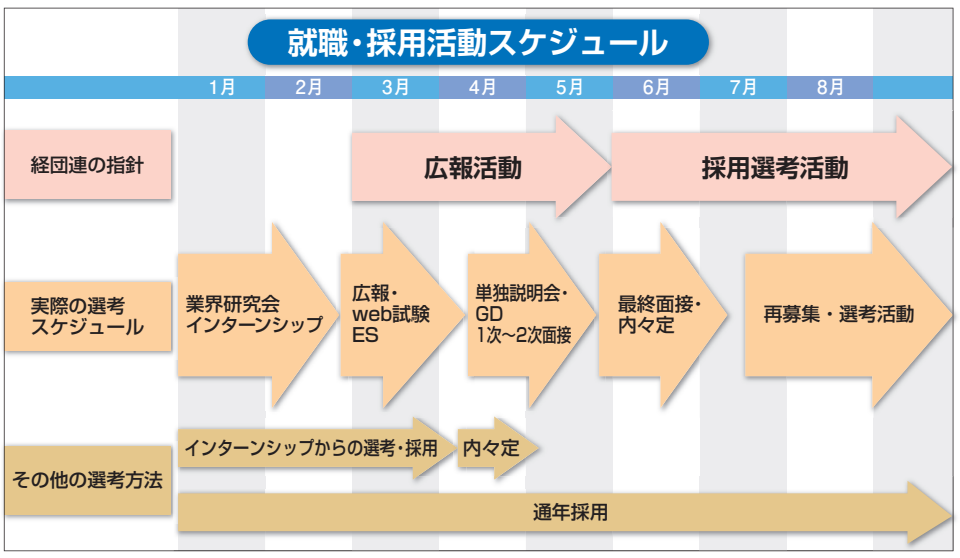
実際はというとSPI3などの筆記試験やESは単独説明会前（3～4月上旬）にインターネット上で受験・提出させる企業も増えてきています。

グループディスカッション対策セミナー

面接等の選考も前倒しとなり、4～5月中にGDや1次・2次面接、5月中下旬に最終面接、6月上旬に内々定出しのピークを迎えるようなスケジュールとなっています。一部の企業はインターンシップを通じての採用や通年採用を取り入れるなど、採用方法も多様化しています。

ただし、この期間に結果が伴わなかったとしても、それ以降、求人がなくなることはありません。

採用数を満たさなかったり、辞退者の補充など様々な理由で6月以降も採用活動を行っている企業はたくさんあります。学内外での合同企業説明会も多数実施されていますので、出会いの機会はまだまだあると考えてよいかと思います。



用語集　※（　）内は学生間での呼称

ES（イーエス）：エントリーシートの略。企業が独自の設問を設定し、学生に提出させる書類。「自己PR」「学生時代に打ち込んだこと」「志望動機」は3大質問。それ以外にも、「学生時代の失敗経験」「チャレンジしたい仕事」「A4用紙1枚を使って自由に自分を表現」など、一筋縄ではいかない設問もあるので、自己分析や企業研究・業界研究をしっかりと準備をして臨みたい。また手書きのときは丁寧に書くことも重要。

GD（ジーディー）：グループディスカッション（集団討論）の略。学生数人で、あるテーマに対して集団で議論し、結論を導き出す集団面接。正答が存在しないテーマがほとんどであり、議論の内容や結論よりもコミュニケーション力や論理的思考力、積極性、協調性などで評価される。自分の主張を曲げない、人の話を聴かない、議論に参加しないなど集団の和を乱す人を俗に「クラッシャー」と呼び、グループ内にクラッシャーがいた場合、全員不合格となることもあるので、全員で合格しようという気持ちで参加することが大切。

BtoB（ビートゥビー）：business to business の略。企業間取引が主の業種。学生の認知が低いため、受験者が少ないのが悩み。求人は営業職が多いが、取引先への営業（ルート営業）のため、学生が敬遠しがちな飛び込み営業はそれほど多くない。

BtoC（ビートゥシー）：business to consumerの略。一般顧客を対象とする業種。小売業や不動産業・飲食業・製造業（食品、化粧品、家電、自動車など）・旅行業等で、学生の人気が高く応募者が多い。

SPI3（エスピーアイスリー）：筆記試験の一種。言語・非言語のテストと性格検査が課される試験。多くの企業が導入しており、主に面接前の選考に使用される。7割程度は正解したい。「北海学園大学の学生は人物評価がとても高い。しかし、SPIで落ちてしまうのでとてももったいない」とは、とある企業（人材大手）の弁。

学長室訪問

▽11月25日　札幌市副市長 町田隆敏氏、一般財団法人さっぽろ産業振興財団専務理事 酒井裕司氏
▽12月5日　モンゴル文化教育大学理事長 牧原創一氏、同学長 トゥムルオチル氏
▽12月9日　私立大学情報教育協会長 向殿政男氏、同局長 井端正臣氏
▽12月16日　環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室長 伊藤賢利氏、時事通信解説委員 中川和之氏、株式会社博報堂テーマビジネス開発局アカウントディレクター 千葉貴木子氏、北海道文化放送報道情報局報道部気象予報士・防災士 菅昇貴子氏
▽12月20日　北海道大学特任教授 田中譲氏
▽12月21日　札幌市豊平区 若井清氏
▽12月26日　ESRIジャパン株式会社ソリューション営業グループ 福田潤氏
▽1月12日　北海道文化服装専門学校長 谷内眞佐子氏、日本ビジュアルマーチャンダイジング協会会員ディスプレイ・アドバイザー 若杉恭子氏
▽1月28日　藤女子大学名誉教授 布施英憲氏
▽2月3日　公認会計士試験現役合格 笹本拓実（経営学部3年）
▽2月6日　株式会社ナシオ相談役 名塩良一郎氏
▽2月14日　留学生会顧問 渡部多美子氏、本学元経済学部教授 神谷順子氏

平成29年度 健康診断日程表（学部生）―豊平校舎―

新1年生	健診日		4月5日(水)		
	1部	経済	9:30～10:30		
		経営	10:30～11:30		
		法	13:00～14:00		
		人文・工	14:00～15:30		
	2部	全学部	17:00～19:00		
	①受診票の受取り・記入：16番教室 ※資料の配布時間は、ガイダンス日程表にて確認してください		（4月5日に、他の資料と一緒に受診票が配布されます）		
	検査項目	②身体計測	③内科診察	④胸部X線	尿検査
	場所	学園会館2階大会議室（生協食堂上）	学園会館3階会議室 女性：8番 男性：9～10番	学生玄関前	体育会クラブ員のみ5月実施

受け方：①受診票の受取り・記入（16番教室）→②～④の順番に検査を受ける（受診票は最後に回収）

学年・健診日	学部		時間	検査・会場
新2年生 4月4日(火)	1部	経済・経営	13:00～15:30	①受診票の受取り・記入（14番教室）→②身体計測（会館大会議室―生協食堂上）→③内科診察（会館会議室―大会議室上）
		法・人文	9:30～11:30	
	2部	全学部	17:00～19:00	
新3年生 4月3日(月)	1部	経済・経営	13:00～15:30	①受診票の受取り・記入（14番教室）→②身体計測（会館大会議室―生協食堂上）→③内科診察（会館会議室―大会議室上）
		法・人文	9:30～11:30	
	2部	全学部	17:00～19:00	
新4年生・研究生 4月1日(土)	1部	経済・経営	13:00～15:30	①身体・視力測定（会館大会議室―生協食堂上）→②内科診察（会館会議室―大会議室上）→③尿検査容器提出・胸部X線（学生玄関前）
		法・人文	9:30～11:30	
		※受診票・尿検査容器の事前受取日時 （法）3月28日(火)10:30～12:00 医務室前 （人文）3月29日(水)10:30～12:00 医務室前 （経済・経営）3月30日(木)10:30～12:15 学生玄関ホール		
	2部	全学部	17:00～19:00	
		※受診票・尿検査容器の事前受取日時 （経営・法・人文）3月28日(火)17:00～20:30 医務室 （経済）3月30日(木)17:00～20:30 医務室		

平成29年度 健康診断日程表（大学院生）―豊平校舎―

学年・健診日	時間	検査・会場
新1年生 4月5日(水)	9:30～11:30 13:00～15:30 17:00～19:00	①受診票の受取り・記入（16番教室）（受診票の受取り時間）9:10～11:00、12:00～15:00、16:45～19:00 →②身体計測（学園会館2階大会議室―生協食堂上）→③内科診察（学園会館3階会議室―女性：8番、男性：9～10番）→④胸部X線（学生玄関前）
新2年生以上 4月1日(土)	9:30～11:30 13:00～15:30 17:00～19:00	①身体計測（会館大会議室）※視力は最終学年のみ →②内科診察（会館会議室―会議室上）→③尿容器提出・胸部X線（学生玄関前）※最終学年のみ ※受診票・尿検査容器の事前受取日時 3月30日(木)10:30～12:15 学生玄関ホール

平成29年度 健康診断日程表 ―山鼻校舎―

健診日 4月3日(月)

	検査場所 / 学年	胸部X線	内科診察	身体計測	尿検査
		2号館1階玄関前	学部生・院女子：31番教室 院男子：32番教室	32番教室	1号館3階ロビー
工学部	新2年生		男子／9:00～10:30　女子／10:30～11:00		体育会系クラブ員は尿検査あり
	新3年生		男子／11:00～12:30　女子／12:30～13:00		
	新4年・研究生	男子／14:00～15:30　女子／15:30～16:00			
大学院	修/新1・2年生	男子／14:00～15:30　女子／15:30～16:00			新2年生は尿検査あり
	博/新1年生	男子／14:00～15:30　女子／15:30～16:00			
	博/新2年生		男子／9:00～10:30　女子／10:30～11:00 男子／12:00～13:30　女子／13:30～14:00 男子／14:00～15:30　女子／15:30～16:00		
	博/新3年生	男子／14:00～15:30　女子／15:30～16:00			

※健康診断の詳細は掲示等でご確認ください。

4年生の皆さんへ「進路調査票」記入のお願い

「進路調査票」は、大学から卒業生に対する調査で卒業後の進路についての最終確認をするものです。必要事項をご記入のうえ、所定の方法で提出するようご協力をお願いします。

記入していただいた情報は、①文部科学省の卒業生の進路調査報告、②キャリア支援センターの各種統計資料の作成、③同窓会活動（会報発送・事業案内）等に使用されるもので、個人情報保護法を遵守しそれ以外に利用することはありません。

◆　◆　◆

提出方法　平成29年3月20日（月）の「卒業証書・学位記授与式」に出席される場合は、証書を受け取る際に提出してください。また、同授与式に出席できない場合は、各学部事務室にて証書を受け取る際に提出願います。

平成29年度 行事日程

月	日(曜日)	行事
平成29年 4	1(土)	健康診断〔4年〕（豊）
	2(日)	入学式
	3(月)	新入生ガイダンス 在学生個別ガイダンス 健康診断（豊3年・工）
	4(火)	新入生ガイダンス 在学生個別ガイダンス 健康診断（豊2年）
	5(水)	新入生ガイダンス 在学生個別ガイダンス 健康診断（豊1年）
	6(木)	第1学期授業開始
5	16(火)	学園創立記念日
6	23(金)～25(日)	第63回対東北学院大学定期戦（札幌）
	25(日)	第1回オープンキャンパス
7	21(金)	実験生物に感謝する日
	26(水)	第1学期授業終了
	27(木)～28(金)	予備日
	29(土)～8/5(土)	第1学期定期試験
8	6(日)～7(月)	第2回オープンキャンパス
	7(月)	夏季休業開始
	13(日)～16(水)	全学休業（事務取扱休止）
9	1(金)～5(火)	第1学期追再試験
	16(土)	9月期卒業生発表 夏季休業終了
	19(火)	第2学期授業開始
	30(土)	9月期卒業証書・学位記授与式 2部（夜間部）オープンキャンパス
10	1(日)	第3回オープンキャンパス
10	4(水)	振替土曜日授業
	7(土)	ホームカミングデー
	7(土)～9(月)	第66回十月祭 第46回工学祭
11	26(日)	特別入試（公募・指定校推薦、社会人Ⅰ期、課題小論文、海外帰国生徒、外国人留学生）
	21(木)	振替土曜日授業
12	26(火)	振替土曜日授業
	27(水)	冬季休業開始
平成30年 1	9(火)	冬季休業終了
	10(水)	第2学期授業再開
	23(火)～24(水)	予備日
	26(金)	第2学期授業終了
	27(土)～2/3(土)	第2学期定期試験
2	8(木)	入学試験準備日
	9(金)～12(月)	入学試験
	19(月)～22(木)	第2学期追再試験
3	3(土)	社会人Ⅱ期入試
	10(土)	卒業生発表
	12(月)	進級生発表
	21(水)	卒業証書・学位記授与式（卒業祝賀会）
	28(水)	在学生ガイダンス〔2年〕（平成30年度）各課程ガイダンス（平成30年度）
	29(木)	在学生ガイダンス〔3年〕（平成30年度）各課程ガイダンス（平成30年度）
	30(金)	在学生ガイダンス〔4年〕（平成30年度）各課程ガイダンス（平成30年度）
	31(土)	各課程ガイダンス（平成30年度）

＊（豊）…経済学部・経営学部・法学部・人文学部・工学部〔1年次〕、（工）…工学部〔2年次以上〕
＊本学学生は、行事日程に関する詳細を掲示板や資料等で確認してください。
＊大学院は、各研究科の行事日程によります。

平成28年度 卒業証書・学位記授与式　3月20日(月) 10:30

平成29年度 入学式　4月2日(日) 10:30

両式典会場　北海道立総合体育センター「北海きたえーる」メインアリーナ
札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号
※駐車場がないので、公共交通機関をご利用ください

交通機関　地下鉄：東豊線「豊平公園」駅下車、地下鉄連絡通路直結
バス：札幌駅前または札幌駅前バスターミナルから白石、清田、西岡、平岡行き乗車（中央バス）「豊平3条12丁目」下車徒歩5分

卒業祝賀会

同窓会と共催で開催する祝賀会は、卒業をお祝いするとともに、同窓会への入会式でもあります。学生時代を共に過ごした仲間とともに、卒業の喜びを分かち合いましょう。教職員・同窓生も出席します。奮ってご参加下さい。

日時　3月20日(月) 14:00～15:30

参加対象　平成28年度 卒業生・大学院修了生・教職員・同窓会役員・学生自治会役員（参加費無料）

会場　札幌パークホテル 地下2階「パークプラザ」
札幌市中央区南10条西3丁目 TEL 511-3131

交通機関　地下鉄南北線「中島公園」駅下車・3番出口より徒歩すぐ